



エリアのビジョンと実現に向けたポイント ワーキンググループでの協議・検討内容の報告

令和6年1月16日

第3回 加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム準備協議会

① 第2回協議会の振り返り

WGの議論

- 商店街は、多くの店主にとっては職住一体の暮らしの場であるとともに、周辺から訪れる人にとっては身近な観光や娯楽の場。加茂市の象徴的な空間。
- 人口減少や後継者不足を背景に、商店街の日常を支える機能の低下に伴い、住む人、訪れる人の密度が少なくなり、それが賑わいや魅力の低下へと連鎖する。
- 鯉のぼりやナイトバザールなどのイベント時に発生する賑わいや消費から、日常的な交流や商いへの還流が生まれると、大きくエリアの価値が高まる。
- 加茂川や加茂山といった憩いの場が近接していて、ゆったり時間が流れている歩行者にとって心地の良いまちなかは、ここだからこその価値。

ここでの暮らしの価値の向上は、身近な楽しみ・娯楽の場の形成につながっていることから、まちの魅力の維持や創出に必要不可欠なもの

【キーワード】 まちなかでの暮らしが心地が良く幸せな日常だと思えるまち

- このエリアに住む人、働く人が住み続けたい、働き続けたいと思える環境があることで、より多くの市民がこのエリアに魅力を見出し、新たな賑わいや交流、消費が生まれ、まちの価値を高めていくことにつながる

方向性

まち(商店街)

・まちなかの主骨格として高密度

みず(加茂川)

・令和に暮らせる商店街づくり

・水辺の滞在環境の向上

・舞台としてのにぎわい活用の促進

みどり(加茂山)

・まとまりを生かした憩い空間としての質の向上

つながり

・まち、みず、みどりの一体感の創出

・ひと、もの、ことの好循環づくり

このまちの大きな資産である

- **まち**(商店街)
- **みず**(加茂川)
- **みどり**(加茂山)の
- **つながり**(活用・連携)

によって、加茂という地域の価値が高まる仕組み、仕掛けづくりを引き続き検討していく

エリアの目指す姿と方向性（案）については、**総論的には承認された**。
また、今後、方向性を更に具体化する際の**検討の視点が例示的に意見が挙げられた**。

■まち（商店街）方向性の具体化検討にあたっての視点

- ・空き店舗の増加と有効活用のあり方【関連データ：25ページ：参照】
- ・定住人口、昼間人口の減少対策（商店街の衰退の背景）【関連データ：15～24ページ：参照】
- ・観光等誘客のためには資源の「見せ方」「売り出し方」
- ・最終的な方向感（日常／観光など）

■今後、方向性を深掘りするにあたっての視点

- ・リソースを踏まえた取組の優先順位
（例：取り組みやすさ／事業性(儲かるかどうか)など）
- ・誰がどのようにいつやるか、長期なのか短期なのか、タイミングの目途
- ・周辺自治体と比較した中での加茂市の独自性、優位性
（人を呼び寄せる場合は重要）
- ・民間の力や資金を活用できる仕組みづくり
- ・取組主体となるプレイヤーの意向の反映
- ・定量的なデータを踏まえた議論
（商店街の空き店舗、業種構成、イベント等の効果など）

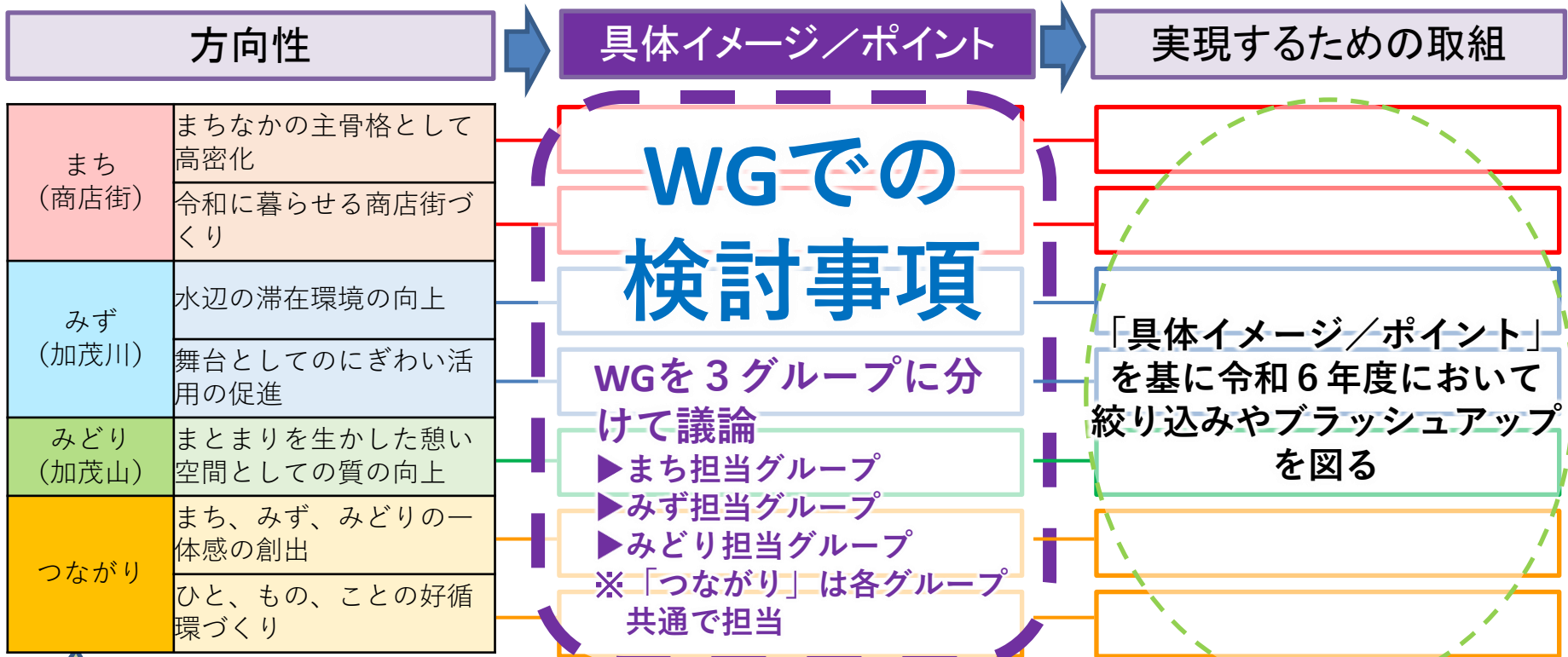


ワーキングでは、「方向性」を更に深掘りするための「具体イメージ／ポイント」を議論

② ワーキンググループでの 協議・検討内容について

ワーキンググループでの協議・検討事項

第2回協議会で提示したキーワードと4つの方向性から、それらを実現するための取組を考える「基準」となるような「具体イメージ/ポイント」を議論（方向性を深掘り）



第2回協議会で提示

WGでの議論の結果を踏まえ、方向性を再整理

これまでのWGでも様々な提案あり

エリアの目指すビジョンの再整理（案）

【未来ビジョン】 懐かしさとあたらしさが交じり紡いで心地よさをかもすまち

市民の記憶が刻まれた懐かしい面影を残す街並みや風景と、時代の変化に対応した新しいニーズや価値観に基づくライフスタイルが融合したまちの姿が、賑わいや交流、消費などを生み出す加茂の魅力や価値となって、まちなかで暮らし、働き、過ごす時間を、最高の日常に仕立てる

エリアビジョン

まち (商店街)

◆加茂の「いいね！」がまるごと詰まったまちの“ぷらっとHOME”
人と人とのコミュニケーションが生まれる場であり、日常生活や地域コミュニティを支える「まちなかの主骨格」として、多世代が気軽に立ち寄れるような「令和における商店街の暮らし」を再構築する。

みず (加茂川)

◆お気に入りの過ごし方がシェアできるまちの“パブリック・リビング”
水辺の多様な使い方が共存できる「滞在環境の向上」を図るとともに、四季の変化や人との出会い、楽しみの発見がある「交流と賑わいを生む舞台としての活用」を促進する。

みどり (加茂山)

◆自然の恵みと神秘を身近に体験できるまちの“うらやま”
自然と歴史が一体となって風格を感じさせ、まちなかにいることを思わず忘れてしまうような環境を生かし、訪れた人のココロとカラダに潤いをもたらす「おもてなし空間としての質の向上」を図る。

つながり

◆まち、みず、みどりの魅力が紡ぎだすとおきの“One Day Story”
まち、みず、みどりの魅力を市民が力を合わせて磨き上げ、一体感を醸成するような仕組み／仕掛けによって、ついお出かけしたくなる場所へと仕立て、「ひと・もの・ことの好循環」を創出する。

エリアの目指すビジョンの再整理（案）

エリアビジョン

まち
(商店街)

加茂の「いいね！」が
まるごと詰まった
まちの“ぷらっとHOME”

みず
(加茂川)

お気に入りの過ごし方が
シェアできるまちの
“パブリック・リビング”

みどり
(加茂山)

自然の恵みと神秘を
身近に体験できる
まちの“うらやま”

つながり

まち、みず、みどりの魅力
が紡ぎだすとおきの
“One Day Story”

実現に向けたポイント


- 加茂のショーケースとなるような飲食店や物販店（特産品含む）の拡充
- 日常的な買い物のしやすさ（交通利便性の向上など）
- 広場や公園、子どもたちが安心して遊べる空間など、人がいる日常風景を生み出す居場所づくり（滞在快適性の向上など）
- 人中心の歩きやすいまちづくり（道路空間の使い方の更なる工夫など）

- 年間を通した訪問目的の充実（鯉のぼりの時期以外におけるイベントの開催や映えスポットになる仕掛けなど）
- 利活用を促す環境の整備（ルールづくりや情報発信を含む）
- 多様な利用シーンが共存できるような利用エリアの設定（ゾーニング）
- 滞在環境の充実（ベンチ、日よけ、手軽な飲食サービスの提供など）

- おもてなし、おでむかえなどホスピタリティの感じられる景観づくり
- わかりやすい案内サインや情報発信などの充実
- 青海神社へのお参り前後の価値を高める憩いや佇み環境の充実
- 生物の多様性や自然体験などの環境学習の場や機会の充実

- まち、みず、みどりをつなぐ仕掛けづくり（商店街⇔加茂川⇔加茂山の間で人の流れを生み出す動線整備、情報発信、関係性の表出など）
- おもてなし空間の形成（美化清掃、加茂だからこその風景など）
- 若者を中心に、チャレンジする場や活躍の機会を提供する仕組みづくり
- まちづくりの新たな担い手を増やす取組の充実

WGでの議論

<p>具体イメージ／ポイントに関する議論</p>	<ul style="list-style-type: none"> 近隣地区住民がふらっと行きたくなる商店街になると良い。 多世代向けの色々な居場所があると、賑わいが生まれる。 大型店舗ではなく、商店街に行く理由は、「店主とのコミュニケーション」である。 生活者のニーズに対応できるよう店舗や生活サービスを充実させる。また、回遊を生む上では飲食店（食べ歩き）が不足している。郊外のスーパー等との差別化を考える必要がある。 空き店舗が有効に利用され、時代のニーズに合わせた商店街としての新陳代謝が進むような仕組みが重要である。 商店街全体が加茂の名物・特産品・お土産も含め、加茂の良いモノが詰まった「ショーケース空間」になると良い。 具体的な取組としては商店街全体を「まるごと道の駅」と捉え、エリア全体で充実したサービスを提供することが有効である。遠方の観光客がメインのターゲットではなく、まちなかエリアで暮らす人、加茂駅を利用する若者、まちなかエリア外の市民や近隣からの訪問者が楽しく過ごせ、幸せになれる「道の駅」になると良い。 歩行者天国等で回遊を楽しめるほか、誰もが公共交通でアクセスしやすい環境をつくることが重要である。
<p>シーン</p>	<ul style="list-style-type: none"> まちなかエリアのこども園に子どもを迎えにいった帰りにお買い物。子どもの託児サービスを利用して便利。商店街で買い物すると託児料金が割引となり嬉しい。 商店街の飲食店に高校生や大学生が、学校帰り、休日に立ち寄っている。 日中は近所に住む高齢者が、井戸端会議を楽しんでいる（心も健康になる）。 商店街に子どもの遊び場ができて、街がにぎやかに、明るくなった。 加茂の名物や特産品・お土産などを買うことができ、市外の友人を連れてきた。 まちなかエリアで乗降すると料金が優遇されるなど、公共交通システムが充実している。 人出が多くにぎわう休日は、大通りの速度抑制や大型車の流入抑制が、また特定のシーズンにおいては道路空間を臨時的駐車場にするなど、安心・安全と利便性が高まった。 
<p>参考</p>	<ul style="list-style-type: none"> 商店街が道の駅化した事例あり。（岡山県 道の駅「山陽道やかげ宿」）【50・51ページ参照】 道の駅は、無料で24時間利用可能な駐車場・トイレ（規模要件なし、分散配置可）、情報発信（交通、生活、観光レク）、地域連携機能を備えればよい。 駐車場：80台程度の道の駅の事例あり。 地元企業も参画したPFI手法等による整備事例あり。

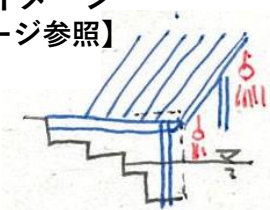
WGでの議論

具体イメージ
／ポイントに
関する議論

- 特定の世代、特定の方々に限定するのではなく、**老若男女、多くの市民が日常的に利用**する空間を目指す。
- **季節感（春夏秋）**を感じることができ、**気軽に繰り返し訪れたいくなるリビング**のようなを目指す。
- **多様な利用ニーズを共存**させるため、佇み・憩いなど静的な使い方をするゾーンと、動的な使い方（若者のスケボー等）をする**ゾーンに分けて、日常の滞在者を増やす**。
- 滞在する上で、**夏場の日よけ（日陰）、座るところは必須**ある（構造物による日よけは無理であるが、移動可能なビーチパラソルをたくさん配置することは可能）。
- 長時間の滞在を可能とするために、広々とした自然の中で**飲食を楽しめる場を提供**する。
- やすらぎ堤や**川床（小京都のイメージ）**を設けることで、川辺の訪問目的や滞在時間を増やす。
- **オールシーズン型**のインスタ映えスポットとなるような空間を目指す。
▶「加茂川の鯉のぼり」だけでなく、加茂川を訪れる仕掛けをオールシーズンで実施し、「加茂川に行けば何かが流れている／見ることができる」ようにする。
- **ルールを守ることを前提**に、花火や焚火（焼き芋）などを楽しめるようにする（できるゾーンを指定）。



■川床イメージ
【52ページ参照】



シーン

- 河川敷が自分らしく過ごせる場所となっている。
- スケボーする若者、ゲートボールする高齢者が、河川空間利用を時間や曜日でシェアリングしている。
- 短時間でも長時間でも誰もが自分らしい過ごし方ができる。
- 子供たちが楽しく水遊び（川レジャー：水切り・水生昆虫探し等）をしている。

参考

- 加茂川周辺の滞在者は、**50代が大半**で、**20代は僅か**。【40・42ページ参照】
⇒50代以上の利用を大切にしながら、まずは若い世代の滞在アップが重要。
- 出水期（6月10日～9月3日）のイベントは調整が必要。
- 夏祭りの時期や鯉のぼりの時期は1日に**1,000人～5,000人**の人が滞在するため、**大人数が腰かけられる場所が必要**。
【38～41ページ参照】
- 現在、加茂川では火気を使う制限はないが、問題が生じると禁止されてしまう可能性がある。このため、焚火等を認める場合は、**適正利用を促す仕組みも必要**となる。

WGでの議論

具体イメージ
／ポイントに
関する議論

- 加茂山公園の特徴は、**まちなかにありながら自然の真っ只中**にいるような環境であり、**自然を前面に打ち出す**ことが有効である。子どもたちが遊びながら**自然を学ぶ**ことができるようにしてはどうか（プレーパーク等）。
- 新潟市や三条市から家族連れが来ており、集客面ではポテンシャルが高い。
- 加茂山は身近な**里山的な存在**であり、まちなかにこのような**「癒し」のエリア**があるのは売りになる。
- 「癒し」の要素は、**神秘**、池の端、食である。「癒し」によって、訪問者の心と身体にリフレッシュやリラックスを提供できる。
- 加茂山公園には、大型ローラースライダーやリス園、民俗資料館、ハイキングコースなど多彩な魅力、**潤いを感じられる場所**である。
- 一方、初めて来た人にとって、どこにどう行ったらよいか案内等情報が不足している。各施設への**案内や誘導路を充実**するほか、**総合的にホスピタリティを高める**必要がある。
- 青海神社のポテンシャルは高いが、滞在機能が弱い**。今でも茶屋があるが、意欲のある民間事業者が更に参入できる仕組みがあるとよい。コーヒー、お茶、会話を楽しめる**静かな賑わい**が生まれるとよい。
- 商店街から鳥居に至る道路は、歩道に景観舗装や水路が整備され、**景観的に優れているので、もっと活かす**ことが重要である。



シーン

- 加茂山に来るたびに、心も身体も健康になれる。
- 季節や時間帯（昼夜）を問わず訪れる場所になっている。
- 距離や標高、移動しやすく、利用しやすい公園になっている。
- 雨対策や暑さ対策、園路灯が充実しており、雨天や夏場、夜でも訪れやすい場所になっている。
- 子どもたちがツリーハウス、手作り遊具、どろんこ遊び、落ち葉プール、虫取り、古道探検など自然をわくわくしながら、環境の素晴らしさを学んでいる。

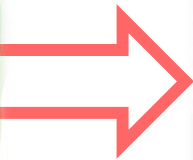
参考

- 加茂山公園の入込客数はコロナ前は約30万人であったが、回復途上にある。【43ページ参照】
- 加茂山公園の訪問者は、市内より近隣市（新潟市）からの利用者が多い状況があるため、市民の利用を促進する必要がある。【46ページ参照】
- 現状、加茂山公園は平日に比べ休日の利用が少ない状況になる。【47ページ参照】
- 平日は、高齢者（60代以上）が多く、休日は、30代が少ない傾向にある。【47ページ参照】

WGでの議論

具体イメージ
／ポイントに
関する議論

- ・ **加茂山、商店街、加茂川がそれぞれに魅力を高めておくことが重要。**また、市民の間で、**商店街、加茂川、加茂山への愛着が芽生え、そこからおもてなしへつなげていくムーブメント**をつくることが重要。
- ・ 1日の中で、例えば加茂山で遊び、商店街で買い物・飲食をし、加茂川で憩うなど、**まち・みず・みどりが連携してストーリーを生み出す**ことを目指す。
- ・ 現状では商店街、加茂川、加茂山のイベントが別々に行われているが、**一体感を醸成するため、まちなかエリア全体をフィールドとした連携イベント**を行う。
- ・ 一部区間（加茂山⇔商店街⇔加茂川）をシーズン又は時間を決めて歩行者天国とするなど、**回遊を生み出す環境を整える。**
- ・ 商店街では、加茂山や加茂川のおすすめ滞在スポットを紹介するなど**回遊を促す情報発信**を行う。



- ・ 学生（加茂農林高校等）や高齢者が**活躍できる場・機会を用意**することで、地域の活力が増し地域内の愛着が芽生えるとともに、外からも魅力あふれるまちと認識され、好循環を創り出していくことができる。
- ・ まちの美化清掃活用や花いっぱい運動など**おもてなしの空間づくり活動の場や機会を提供できる仕組み**をつくる。
- ・ 空き店舗をチャレンジショップとして活用することが考えられるが、所有者との調整など、簡単にできない場合もあるため、加茂川や加茂山を**チャレンジ空間として活用できる仕組み**をつくる。



シーン

- ・ 農林高校の生徒たちが、農産物の販売や花壇の維持管理などプレイヤーとして活躍している。
- ・ 加茂山で遊んで、商店街でショッピングやランチ、店主との会話を楽しみ、加茂川でビール・ドリンクを片手にまったりする。
- ・ 小京都加茂ツアーとして、みどり（加茂山）⇔まち（商店街）⇔みず（加茂川）を巡るツアーを実施している。
- ・ 加茂川の河川敷に仮設のチャレンジショップを開設し、実績を積み重ねたあと、地元金融機関の支援を受けて、商店街の空き店舗で本格開業する事業者が生まれた。

参考

・ 葵橋～穀町・本町（宮大門交差点）～青海神社は、現状でも歩行者通行量が相対的に多い。【32・33ページ参照】

**【資料編その1】 まちなかエリアデータ集
(ワーキングでの議論に活用したデータ)**

方向性

まち(商店街)

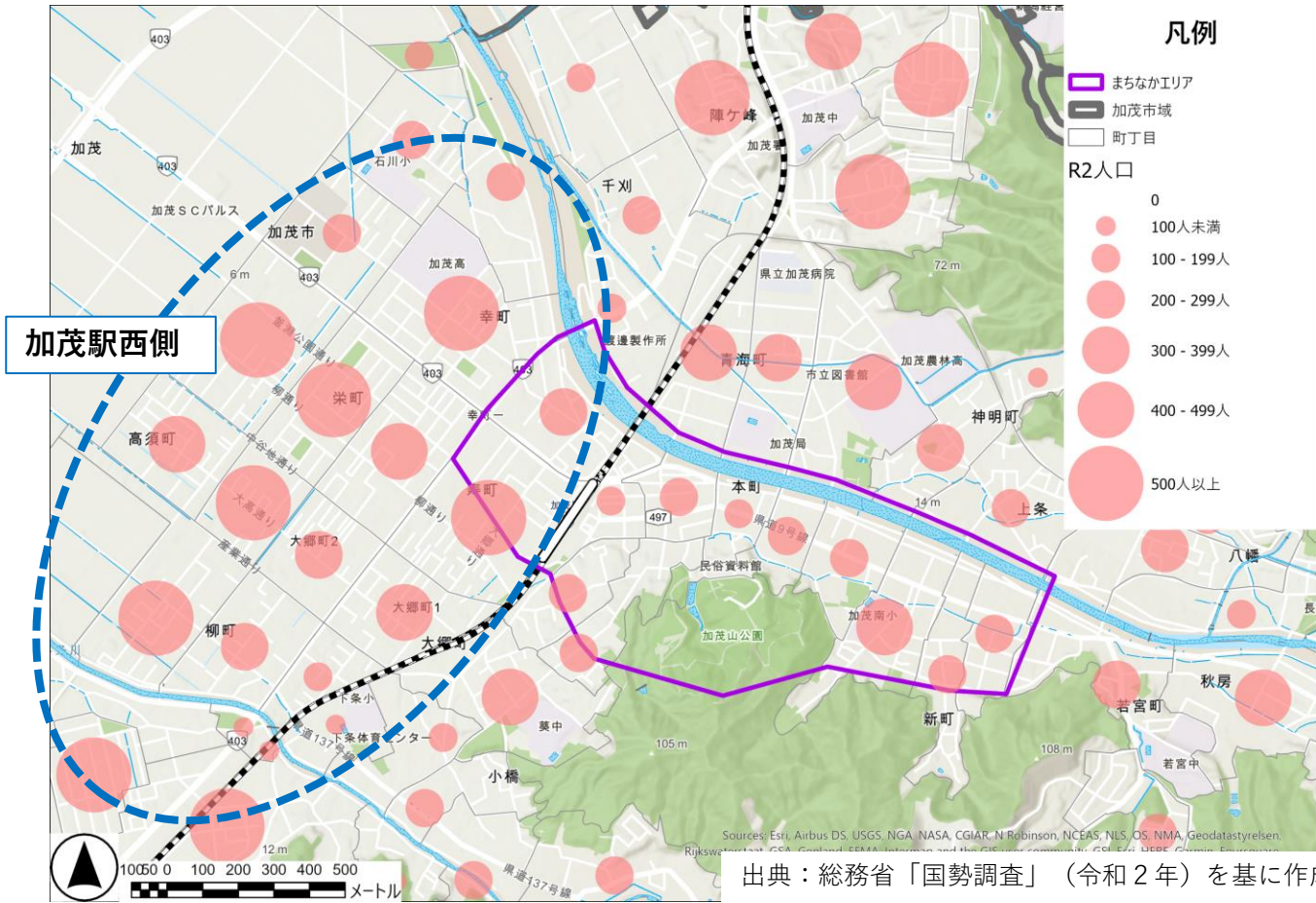
- ・まちなかの主骨格として高密度
- ・令和に暮らせる商店街づくり

まちなかの人口

町丁目別の人口分布 (令和2年)

人口は加茂駅西側に集積しており、まちなかエリアの人口は相対的に少なくなっている。

■町丁目別の人口分布



方向性

まち(商店街)

・まちなかの主骨格として高密度化

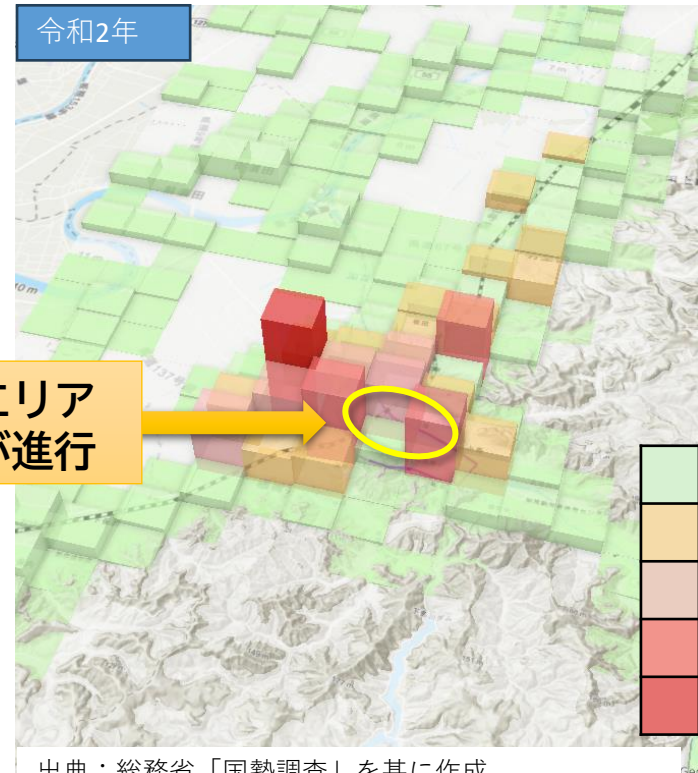
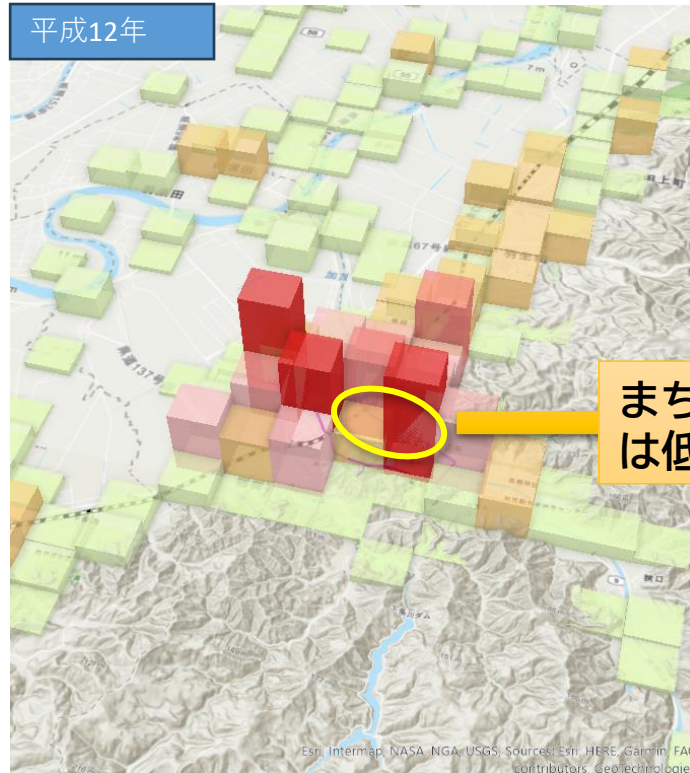
・令和に暮らせる商店街づくり

まちなかの人口

過去20年間の人口分布変化

- 過去20年間でまちなかエリアは、加茂駅西側に比べて人口減少が顕著。
- 20年前は約40人/ha（市街地の目安）以上で、50人/ha以上のエリアもあったが、現在では30人/ha以上 ⇒ **人口減少に歯止めをかけることが重要。**

■500mメッシュ別の人口密度分布



まちなかエリア
は低密化が進行

20人/ha未満
20~30人/ha
30~40人/ha
40~50人/ha
50人/ha以上

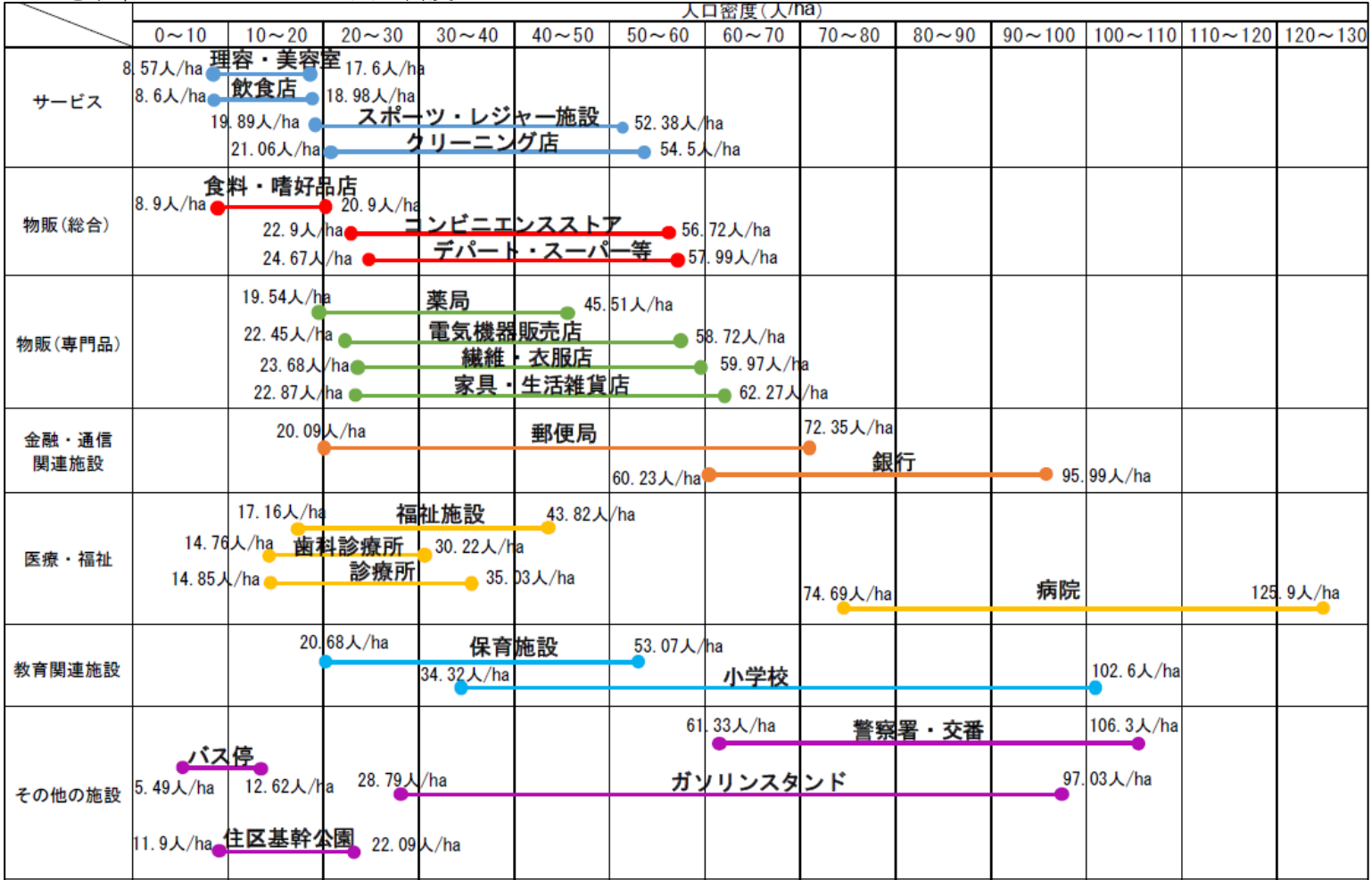
出典：総務省「国勢調査」を基に作成

参考

人口密度と施設の立地確率に関する研究結果
(広島県内の自治体を対象とした研究)

人口密度の低下は、生活関連サービスの存続を危うくする可能性を指摘。

■立地確率が50~80%となる人口密度



出典：人口密度を指標とした都市施設の立地傾向に関する調査報告

方向性

まち(商店街)

・まちなかの主骨格として高密化

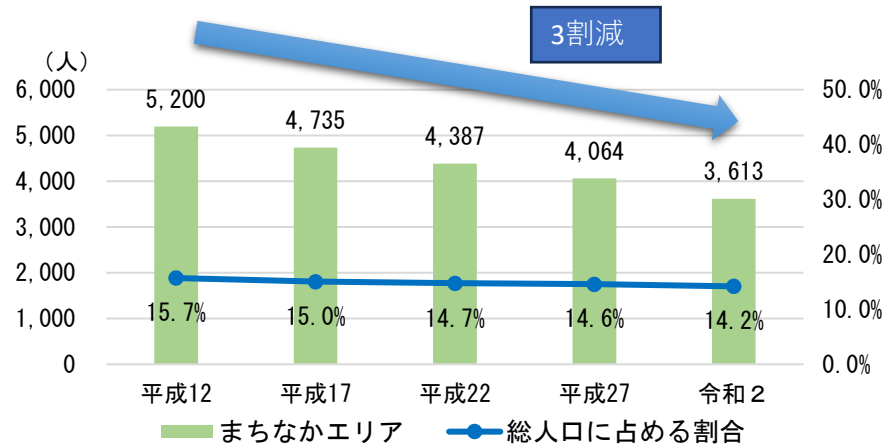
・令和に暮らせる商店街づくり

まちなかの人口

過去20年間の人口変化

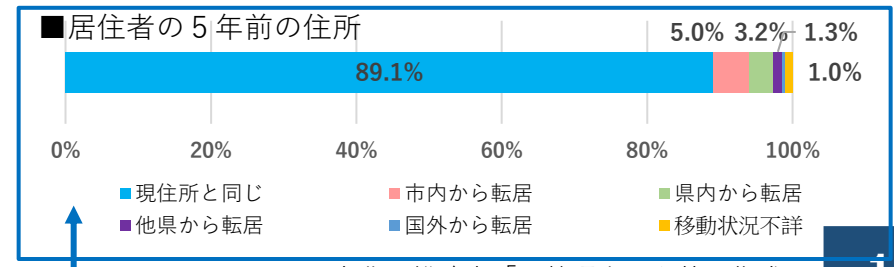
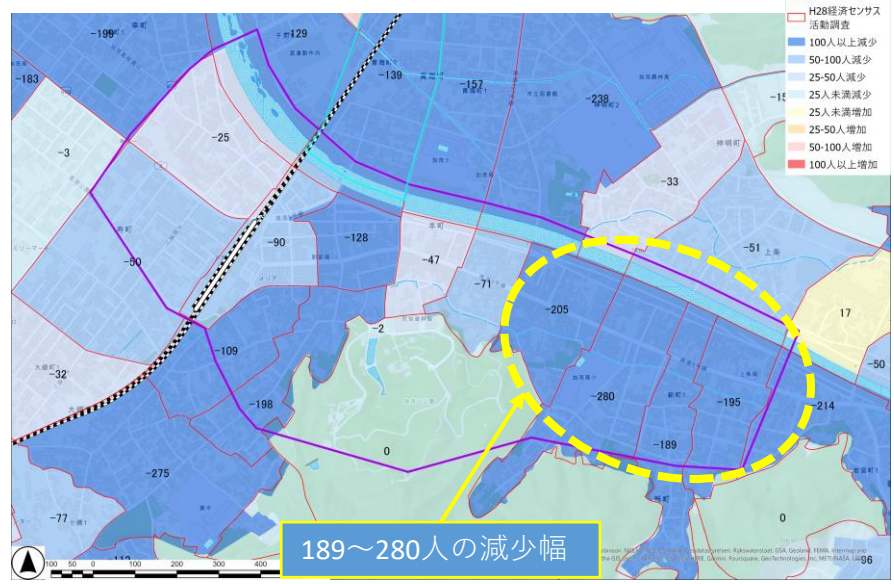
- 過去20年間でまちなかエリアは人口が3割減、上町、五番町、新町1・2丁目は4割減。
⇒道路整備などこれまで投資してきた**既存ストックが活かされていない**。
- まちなかエリアの人口の5年前の居住地を見ると1割が転居人口（エリア外からの転入）。

■まちなかエリアの人口推移



町丁目	平成12	平成17	平成22	平成27	令和2	令2/平12	令2-平27
本町	150	131	120	110	103	-31.3%	-47
仲町	275	262	228	219	204	-25.8%	-71
上町	500	445	396	337	295	-41.0%	-205
五番町	699	582	527	471	419	-40.1%	-280
新町一丁目	484	441	416	363	295	-39.0%	-189
新町二丁目	432	401	351	293	237	-45.1%	-195
穀町	365	343	305	274	237	-35.1%	-128
駅前	271	212	224	189	181	-33.2%	-90
番田	405	373	404	405	380	-6.2%	-25
寿町	774	759	744	785	724	-6.5%	-50
松坂町	467	441	367	331	269	-42.4%	-198
岡ノ町	378	345	305	287	269	-28.8%	-109
合計	5,200	4,735	4,387	4,064	3,613	-30.5%	-1,587

■まちなかエリアの町丁目別の人口変化（平成12～令和2年）



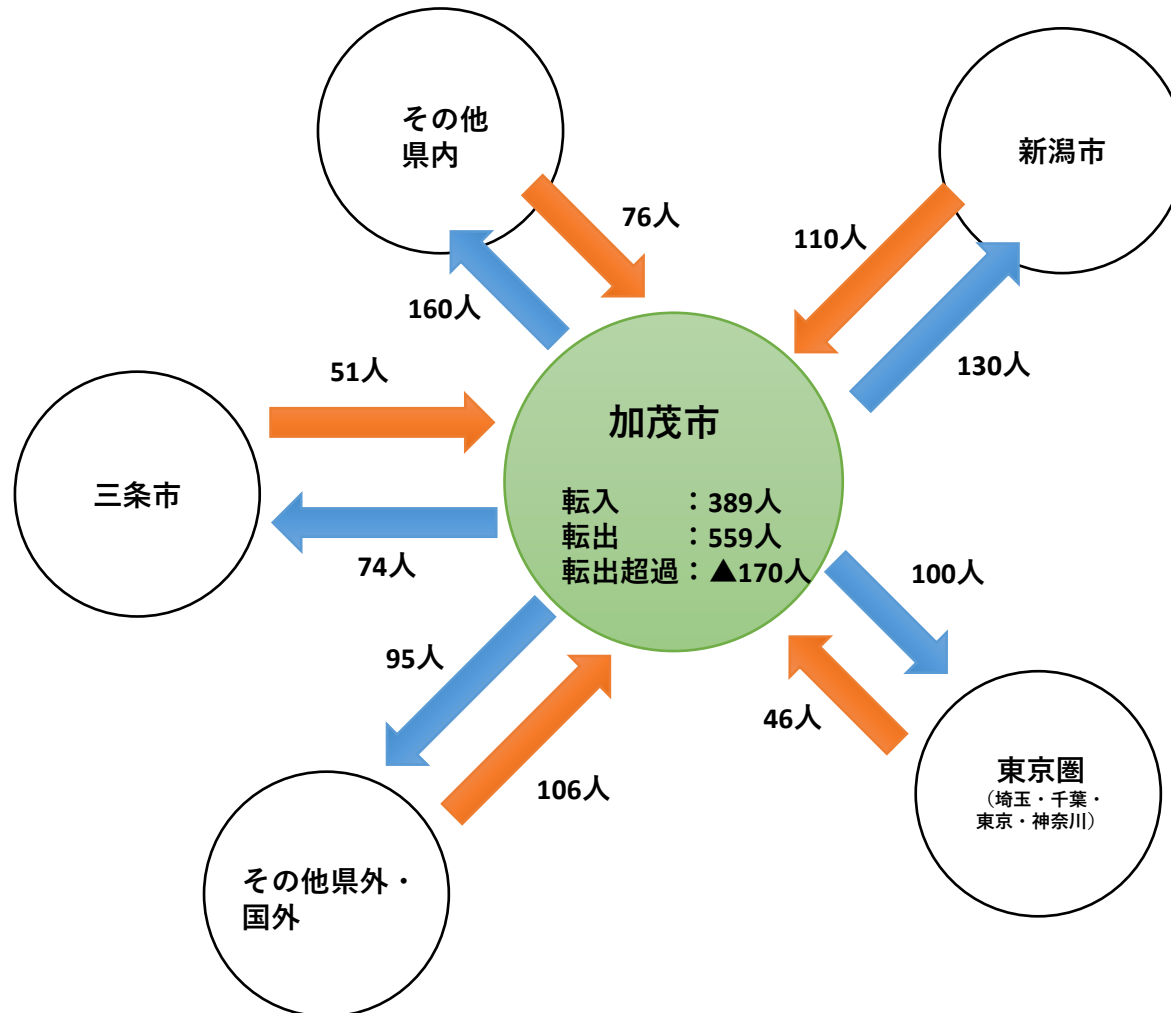
出典：総務省「国勢調査」を基に作成

参考

加茂市の転入・転出状況（令和3年10月1日～令和4年10月1日）

- 人口の転入元・転出先は、県内では新潟市、三条市、県外では東京圏が多く、転出超過の状況。

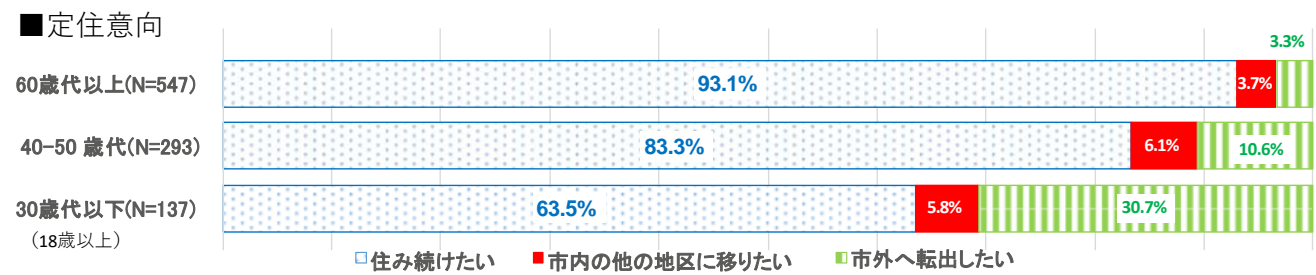
■人口の転入元・転出先



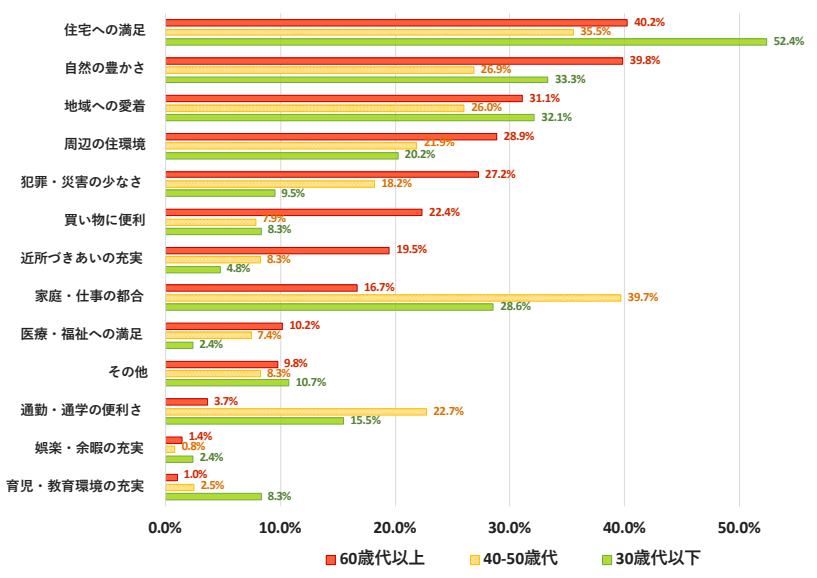
参考

定住意向 (市民アンケート調査結果)

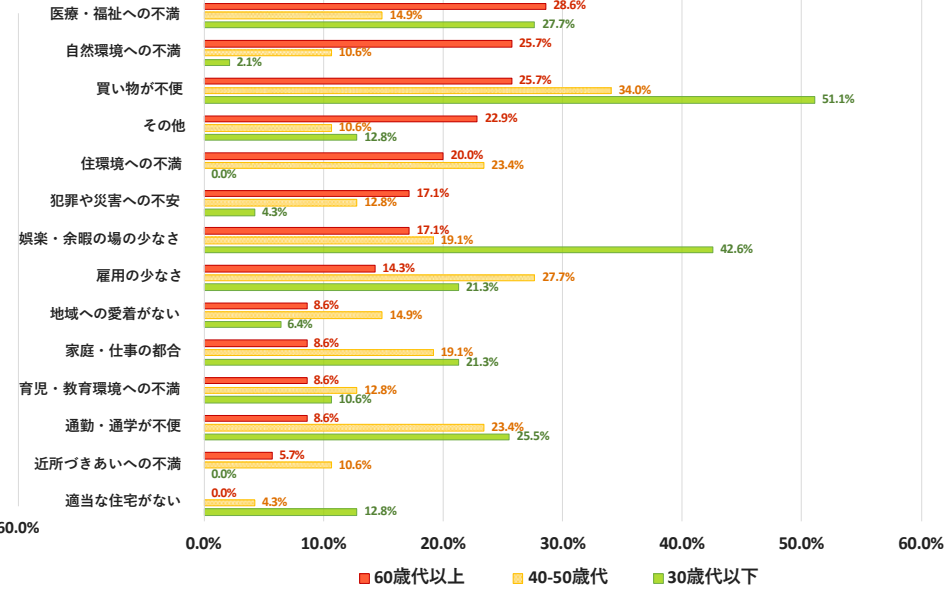
- 30歳以下の若い世代において市外への転出意向が高く、その理由は「買い物が不便」や「娯楽・余暇の場の少なさ」などの**都市的な機能集積の不足**が挙げられている。
- 一方、若い世代の定住意向の理由は「住宅への満足」が多い。



定住意向の理由 (年齢別)



転出意向の理由 (年齢別)



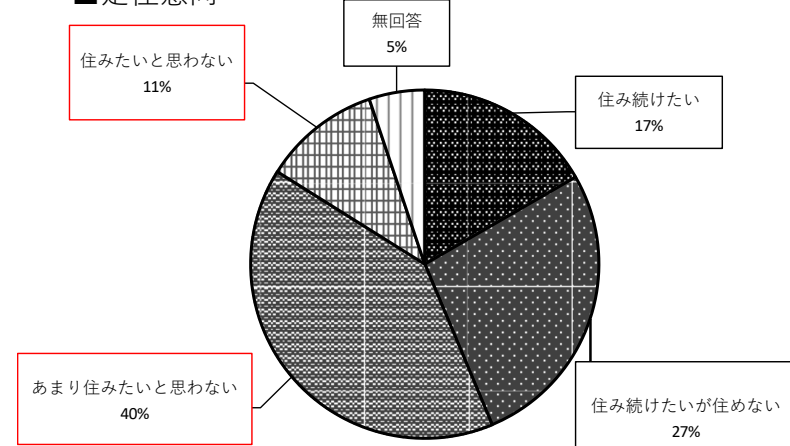
出典：加茂市市民アンケート調査 (令和2年)

参考

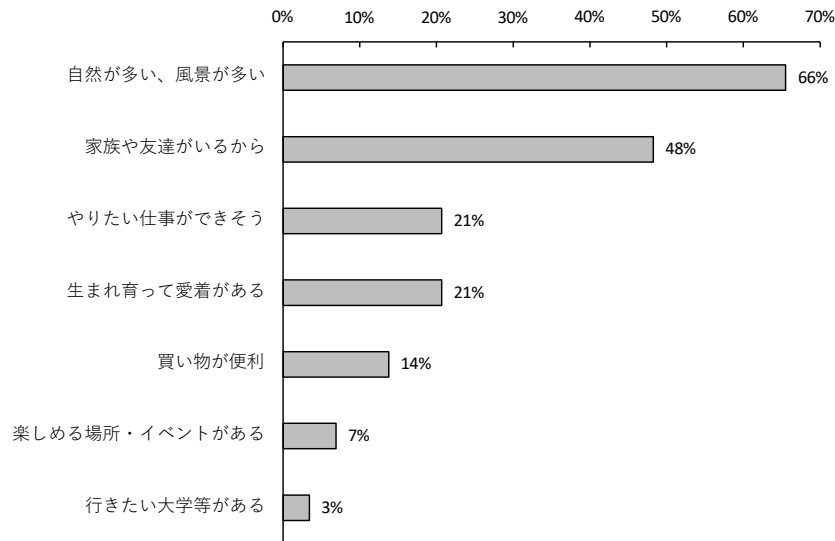
定住意向（中学生アンケート結果）

- 中学生では、転出意向が過半を占め、その理由としては「**やりたい仕事ができない**」、「**お店が少なく買い物が不便**」が3割以上を占める。
- 定住意向の理由では、「**自然が多い、風景が多い**」が6割以上。

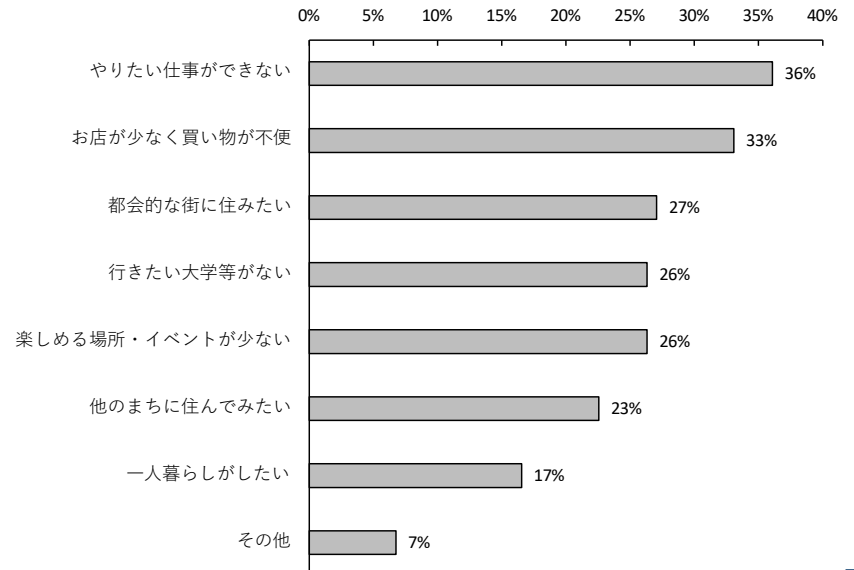
■定住意向



■定住意向の理由



■転出意向の理由



方向性

まち(商店街)

・まちなかの主骨格として高密化

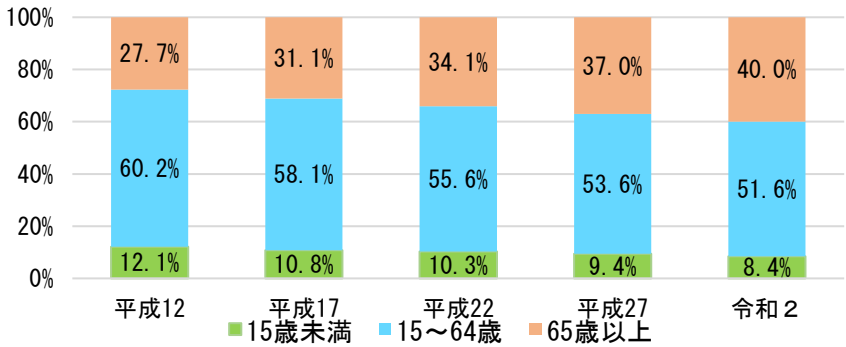
・令和に暮らせる商店街づくり

まちなかの人口

過去20年間の年齢別人口割合の変化

- 過去20年間でまちなかエリアの高齢化率は28%から40%に増加し、新町二丁目は概ね2人に1人が高齢者（高齢化率：49%）。
- 過去20年間で15～64歳人口は4割減、15歳未満人口は半減。
⇒高齢者が暮らし続けられると同時に若い世代が住みたいと思うまちづくりも重要。

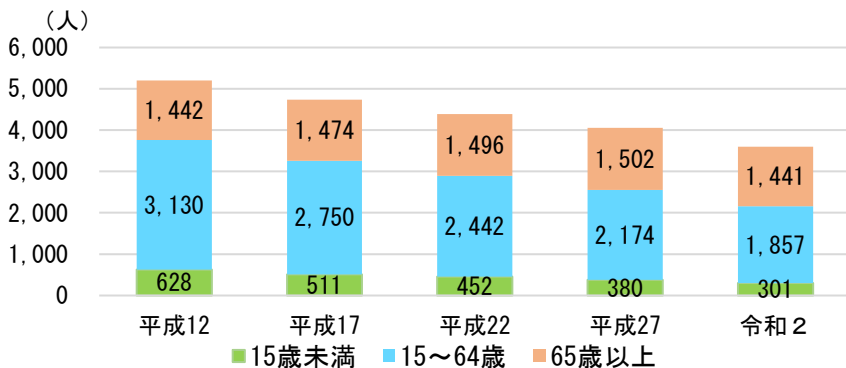
■まちなかエリアの年齢別の人口割合の推移



■まちなかエリアの高齢化率の推移

町丁・字等	平成12	平成17	平成22	平成27	令和2	令2-平12
本町	24.7%	29.0%	30.1%	39.1%	35.0%	10.3
仲町	35.6%	39.3%	43.0%	42.9%	43.6%	8.0
上町	29.4%	31.9%	36.1%	41.5%	43.1%	13.7
五番町	29.8%	30.8%	37.2%	43.1%	46.8%	17.0
新町一丁目	26.4%	31.1%	35.8%	37.7%	41.7%	15.2
新町二丁目	33.3%	37.4%	38.7%	39.6%	48.5%	15.2
穀町	32.1%	32.1%	34.8%	36.9%	40.9%	8.9
駅前	22.9%	28.3%	31.7%	34.4%	38.1%	15.2
番田	19.3%	24.9%	25.2%	27.2%	31.8%	12.6
寿町	22.4%	27.9%	30.9%	32.7%	33.0%	10.7
松坂町	30.4%	30.8%	31.6%	36.3%	44.2%	13.8
岡ノ町	28.6%	33.0%	36.7%	40.4%	40.9%	12.3
合計	27.7%	31.1%	34.1%	37.0%	39.9%	12.2

■まちなかエリアの年齢別の人口の推移



方向性

まち(商店街)

・まちなかの主骨格として高密度化

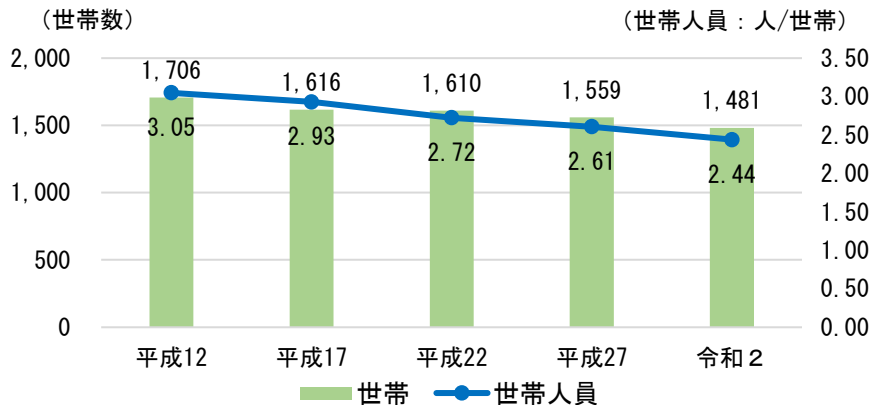
・令和に暮らせる商店街づくり

まちなかの世帯数

過去20年間の世帯の変化

- 過去20年間でまちなかエリアの世帯数は1割減、上町、五番町、新町1・2丁目は2割減
⇒人口・世帯減少が進むと**今後は空き家が増大**する可能性。
- 世帯規模は過去20年間で3.05人／世帯から2.44人／世帯と小規模化が進行しており、高齢夫婦世帯や高齢単身世帯が増加していると想定。
⇒高齢世帯が**家に閉じこもり(孤立)**しないようなまちづくりが重要。

■まちなかエリアの世帯数の推移



町丁目	平成12	平成17	平成22	平成27	令和2	令2/平12
本町	40	36	41	37	38	-5.0%
仲町	100	97	92	89	85	-15.0%
上町	151	143	138	126	118	-21.9%
五番町	235	212	204	189	173	-26.4%
新町一丁目	149	145	143	135	120	-19.5%
新町二丁目	143	140	131	113	104	-27.3%
穀町	116	115	104	103	93	-19.8%
駅前	86	73	78	70	71	-17.4%
番田	132	127	141	150	150	13.6%
寿町	277	266	295	322	317	14.4%
松坂町	155	151	137	126	115	-25.8%
岡ノ町	122	111	106	99	97	-20.5%
合計	1,706	1,616	1,610	1,559	1,481	-13.2%

方向性

まち(商店街)

・まちなかの主骨格として高密度

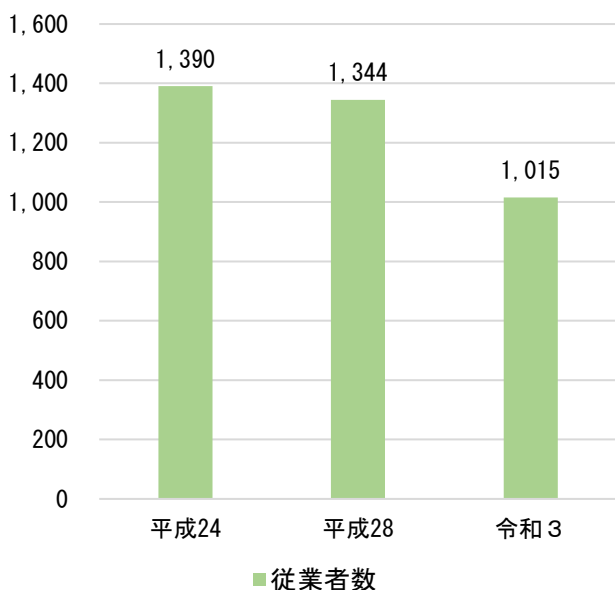
・令和に暮らせる商店街づくり

まちなかで働く人

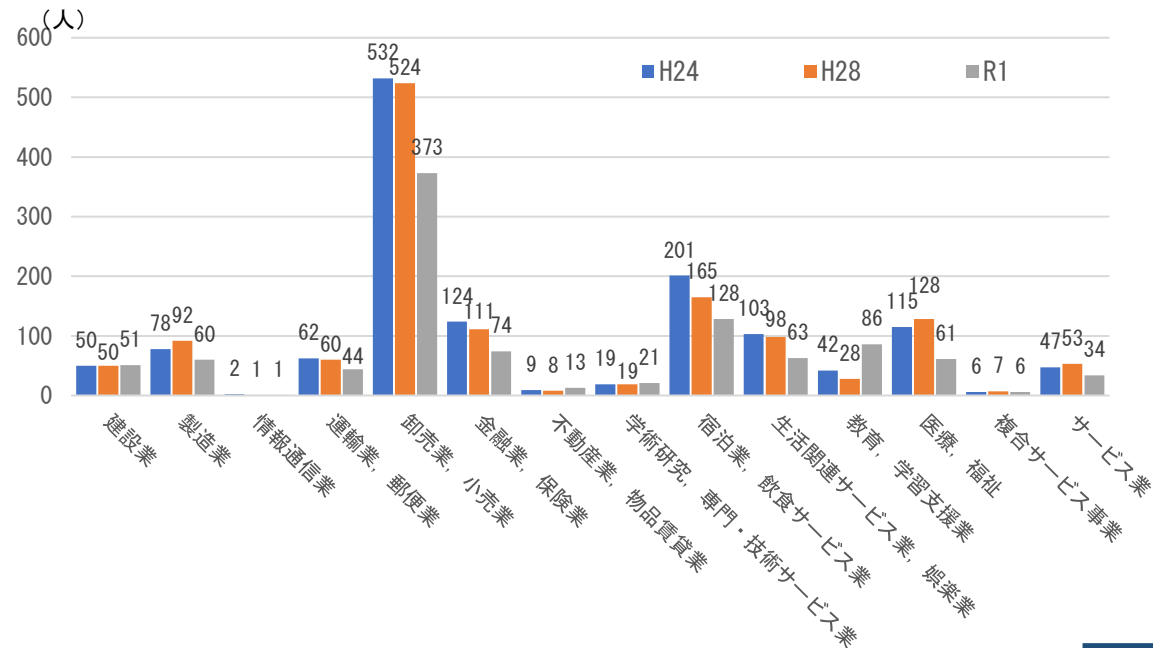
過去20年間の従業者の変化

- 従業者数は平成24～平成28年が微減程度であったものが平成28～令和3年で1 / 4減少。
 - 業種別には最も多い卸売業、小売業の減少が顕著なほか、高齢化が進む中で医療、福祉の従業者も減少。
- ⇒ビジネスの空間として**創業・起業に対する支援**が重要。

■まちなかエリアの従業者数の推移 (人)



■まちなかエリアの業種別の従業者数の変化



※五番町、駅前、穀町、上町、新町1・2丁目、仲町、本町の値を集計

出典：総務省「経済センサス活動調査」を基に作成

方向性

まち(商店街)

・まちなかの主骨格として高密度

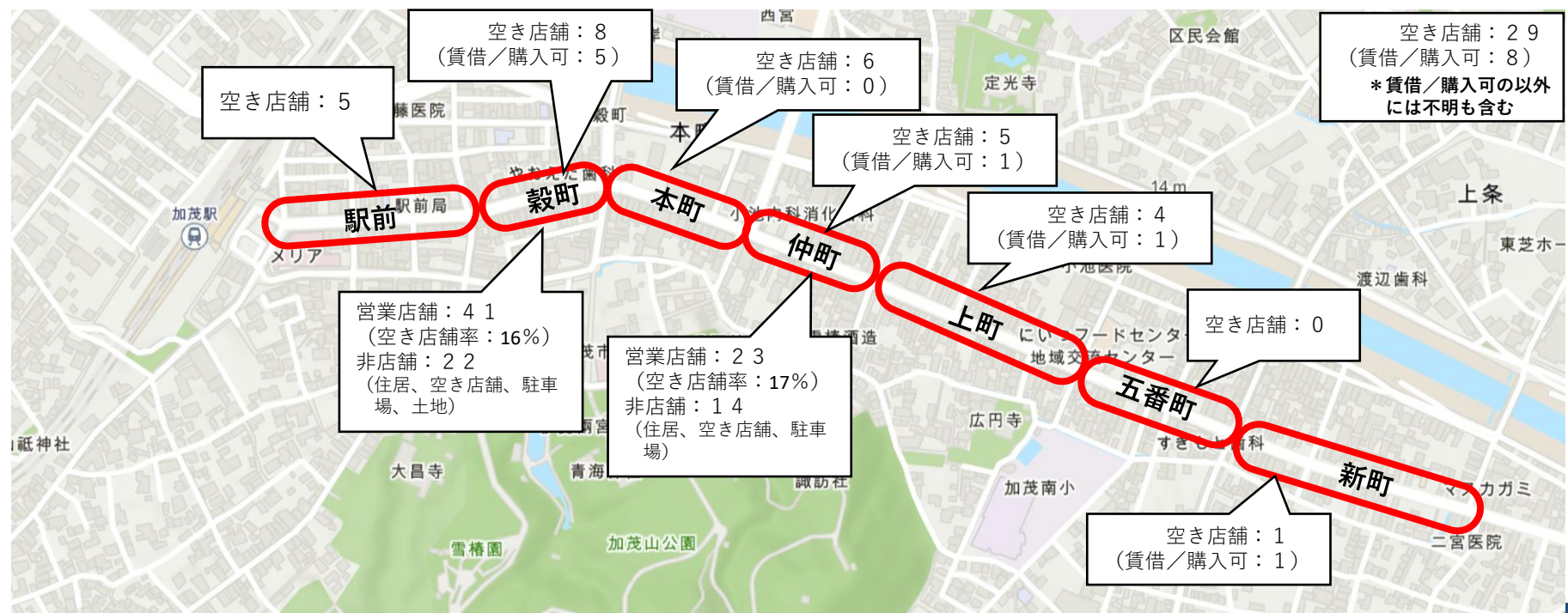
・令和に暮らせる商店街づくり

商店街の空洞化

空き店舗等の状況

- 空き店舗 (29店舗) のうち賃借／購入可は8店舗。
- 住居等の非店舗化も進行。
- 空き店舗に対しては「加茂市空き店舗対策事業費補助金」により有効活用を支援。
⇒ 空き店舗の有効活用に向けた**物理的・心理的ハードルを解消**することが重要。

■ 商店街の空き店舗の状況



出典：「商店街空き店舗調査」(令和5年4月1日)を基に作成

方向性

まち(商店街)

- ・まちなかの主骨格として高密化
- ・令和に暮らせる商店街づくり

日常の賑わい

商店街の歩行者の通行量

- 加茂駅から離れるにつれて歩行者通行量が減少する傾向。
- 駅周辺は平日・休日とも400人/日である一方、新町付近は100人未満/日。
⇒沿道の店舗集積、土地利用、地域資源などポテンシャルに差異があり、特性を踏まえた「性格付け」(ゾーニング)が重要。

■まちなかエリアの歩行通行量 (*auスマートフォンユーザーに基づく推計値)



※吹き出しの上段は平日の1日平均、下段は休日の1日平均 (2023年10月1日~31日)

データ提供: KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

ワーキングでの検討のための共有情報 (インプット情報)

4つの方向性を深掘りしていくにあたり、議論に必要なデータ・資料

方向性

まち(商店街)

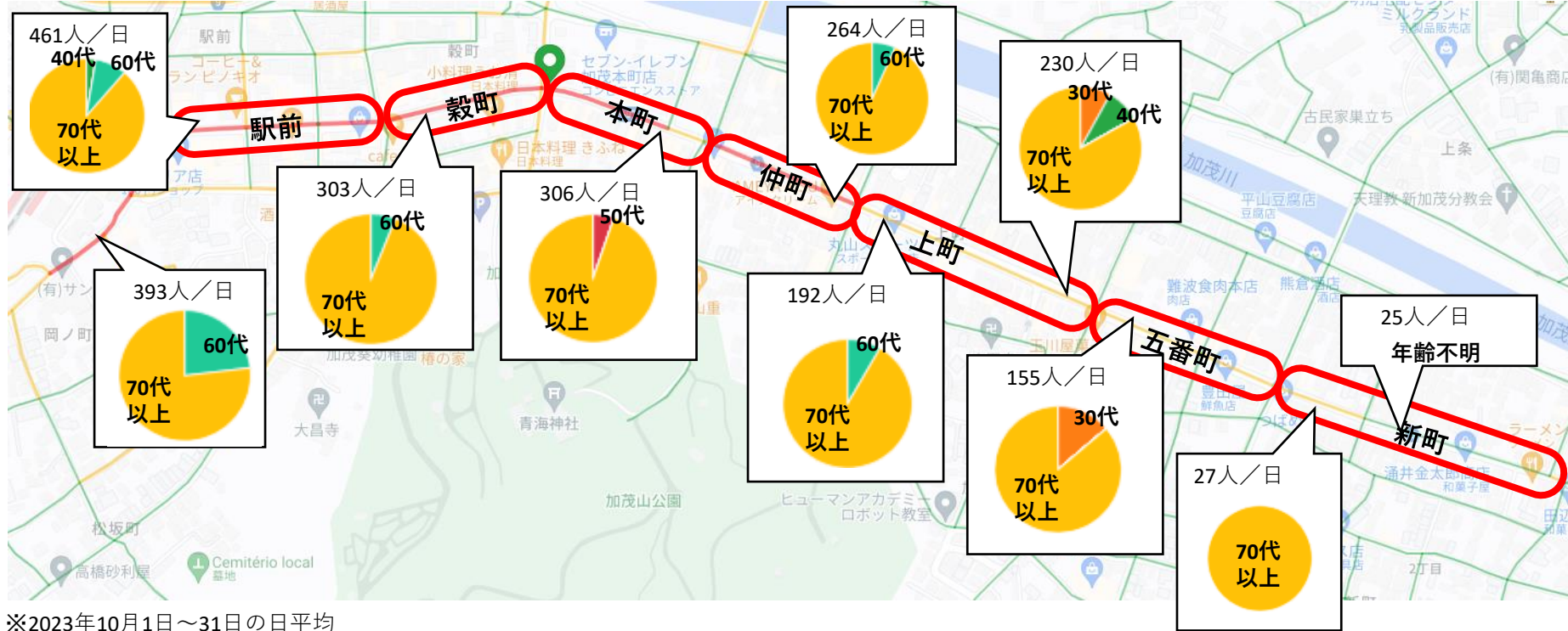
- ・まちなかの主骨格として高密化
- ・令和に暮らせる商店街づくり

日常の賑わい

商店街の歩行者の年齢別通行量 (平日)

- 平日の歩行者通行量は高齢者が中心である。

■ まちなかエリアの平日の年齢別歩行通行量 (* auスマートフォンユーザーに基づく推計値)



※2023年10月1日～31日の日平均

データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
 ※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

方向性

まち(商店街)

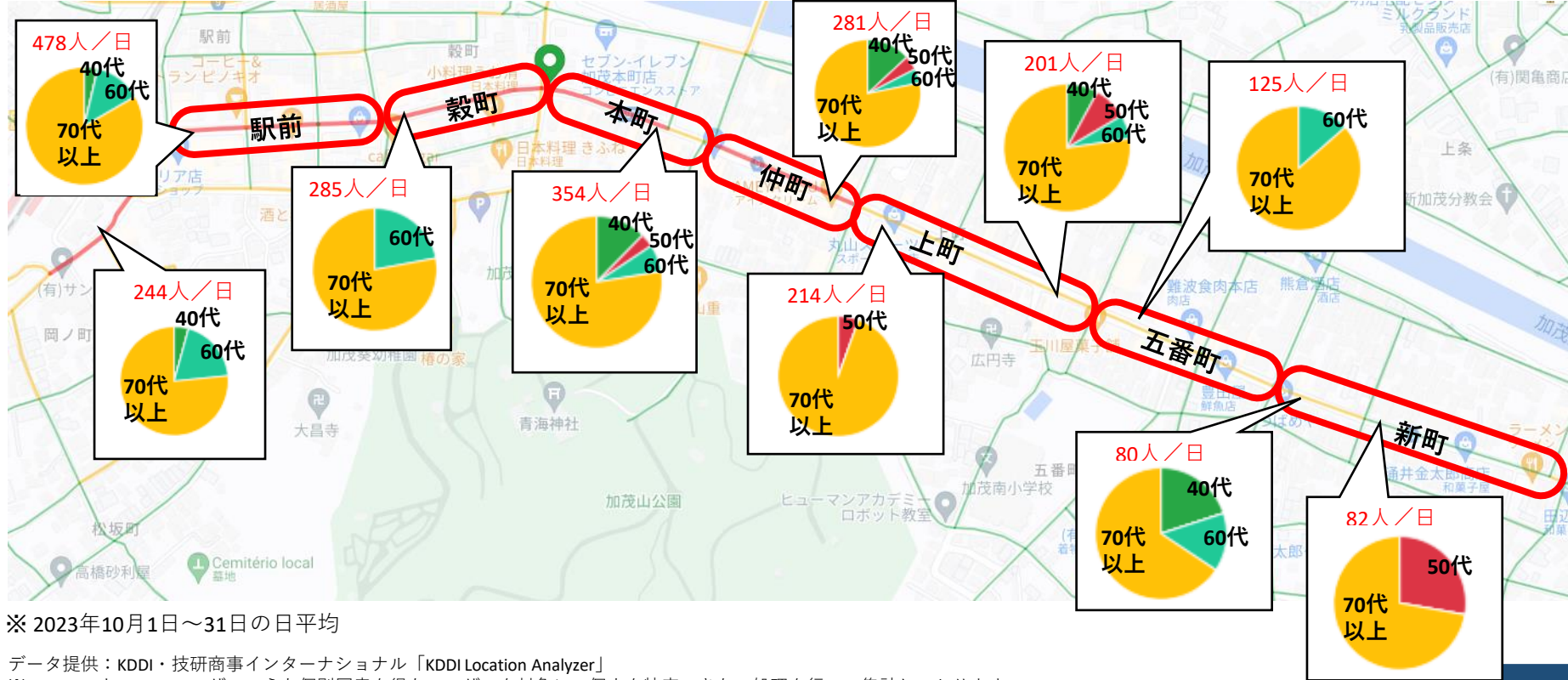
- ・まちなかの主骨格として高密化
- ・令和に暮らせる商店街づくり

日常の賑わい

商店街の歩行者の年齢別通行量 (休日)

- 休日は平日と比べて年齢層が多様になるが、高齢者が中心である。

■ まちなかエリアの休日の年齢別歩行通行量 (*auスマートフォンユーザーに基づく推計値)



※ 2023年10月1日～31日の日平均

データ提供: KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
 ※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

方向性

まち(商店街)

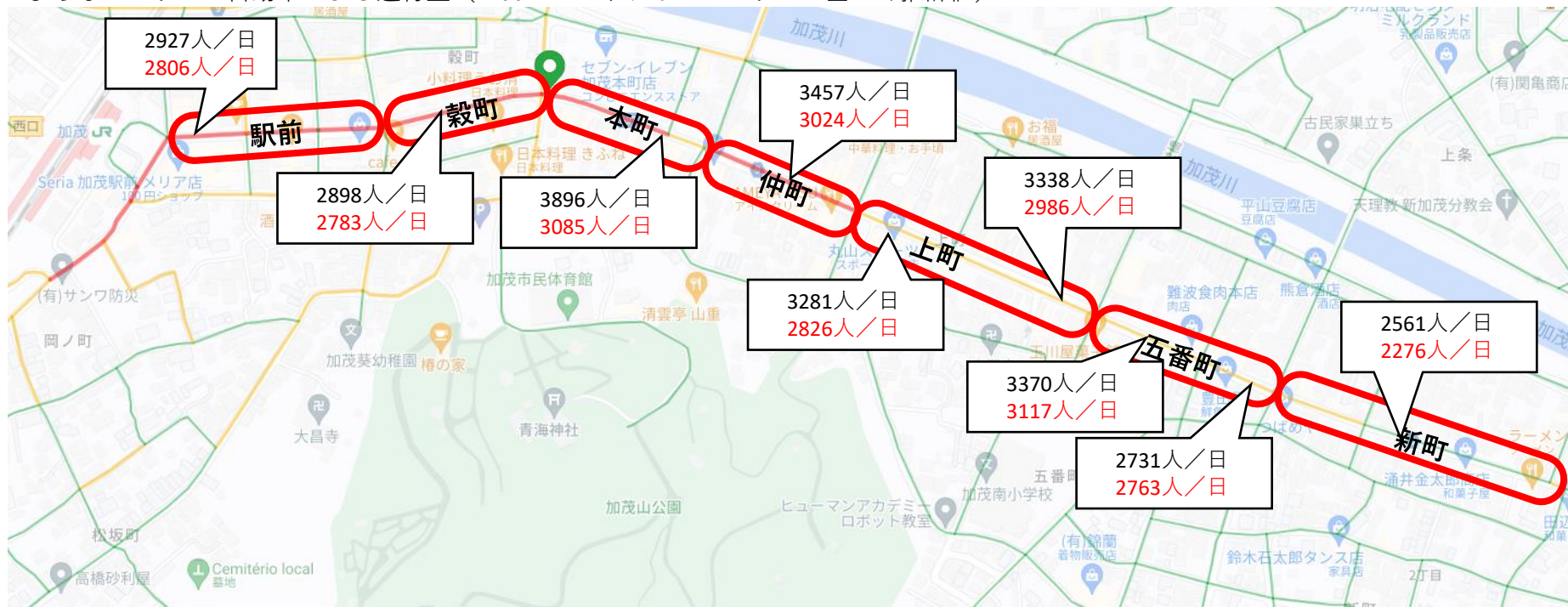
- ・まちなかの主骨格として高密度化
- ・令和に暮らせる商店街づくり

日常の賑わい

商店街の自動車の通行量

- 自動車による通行量は、平日・休日ともに各観測区間で3千人前後となっている。
- 平日の方が休日よりやや多い傾向である。
- 新町付近は、自動車による通行量が最も少ない。

■まちなかエリアの自動車による通行量 (*auスマートフォンユーザーに基づく推計値)



※吹き出しの上段は平日の1日平均、下段は休日の1日平均 (2023年10月1日~31日)

データ提供: KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

方向性

まち(商店街)

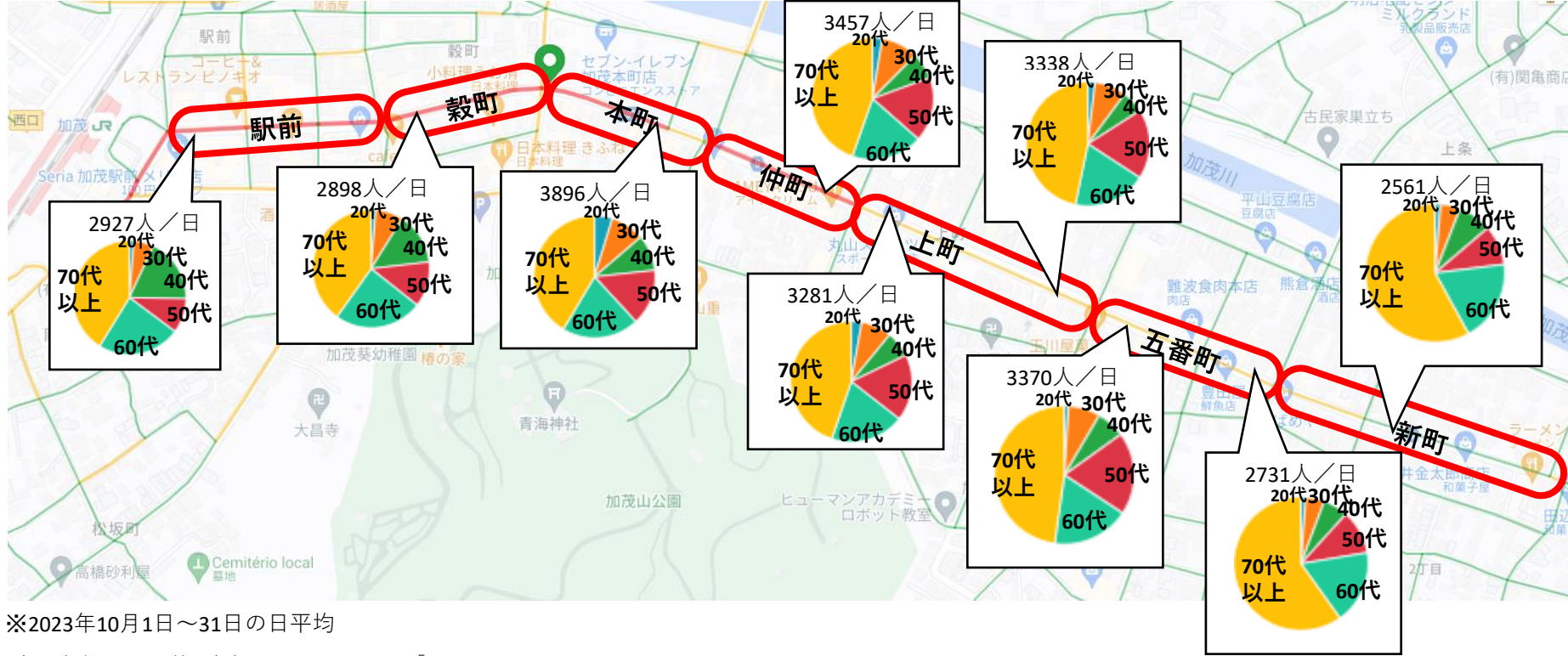
- ・まちなかの主骨格として高密化
- ・令和に暮らせる商店街づくり

日常の賑わい

商店街の自動車の年齢別通行量 (平日)

- 60歳以上が過半であり、新町付近から70歳以上の割合が高い (過半)。

■ まちなかエリアの平日の自動車による年齢別通行量 (*auスマートフォンユーザーに基づく推計値)



※2023年10月1日～31日の日平均

データ提供: KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
 ※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

ワーキングでの検討のための共有情報 (インプット情報)

4つの方向性を深掘りしていくにあたり、議論に必要なデータ・資料

方向性

まち(商店街)

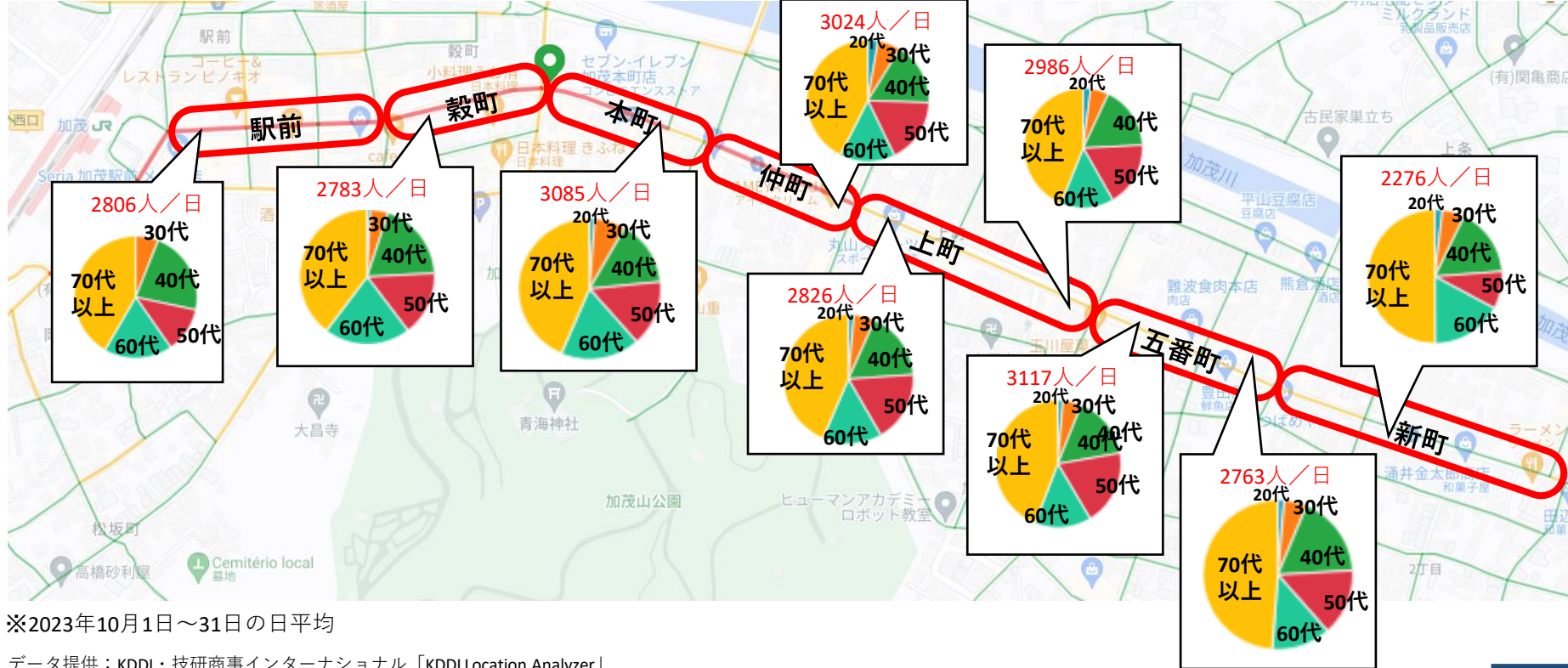
- ・まちなかの主骨格として高密度化
- ・令和に暮らせる商店街づくり

日常の賑わい

商店街の自動車の年齢別通行量 (休日)

- 平日と同様に60歳以上が過半であり、新町付近から70歳以上の割合が相対的に高い (50%程度)。

■ まちなかエリアの休日の自動車による年齢別通行量 (*auスマートフォンユーザーに基づく推計値)



※2023年10月1日～31日の日平均

データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
 ※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

ワーキングでの検討のための共有情報 (インプット情報)

4つの方向性を深掘りしていくにあたり、
議論に必要なデータ・資料

方向性

まち(商店街)

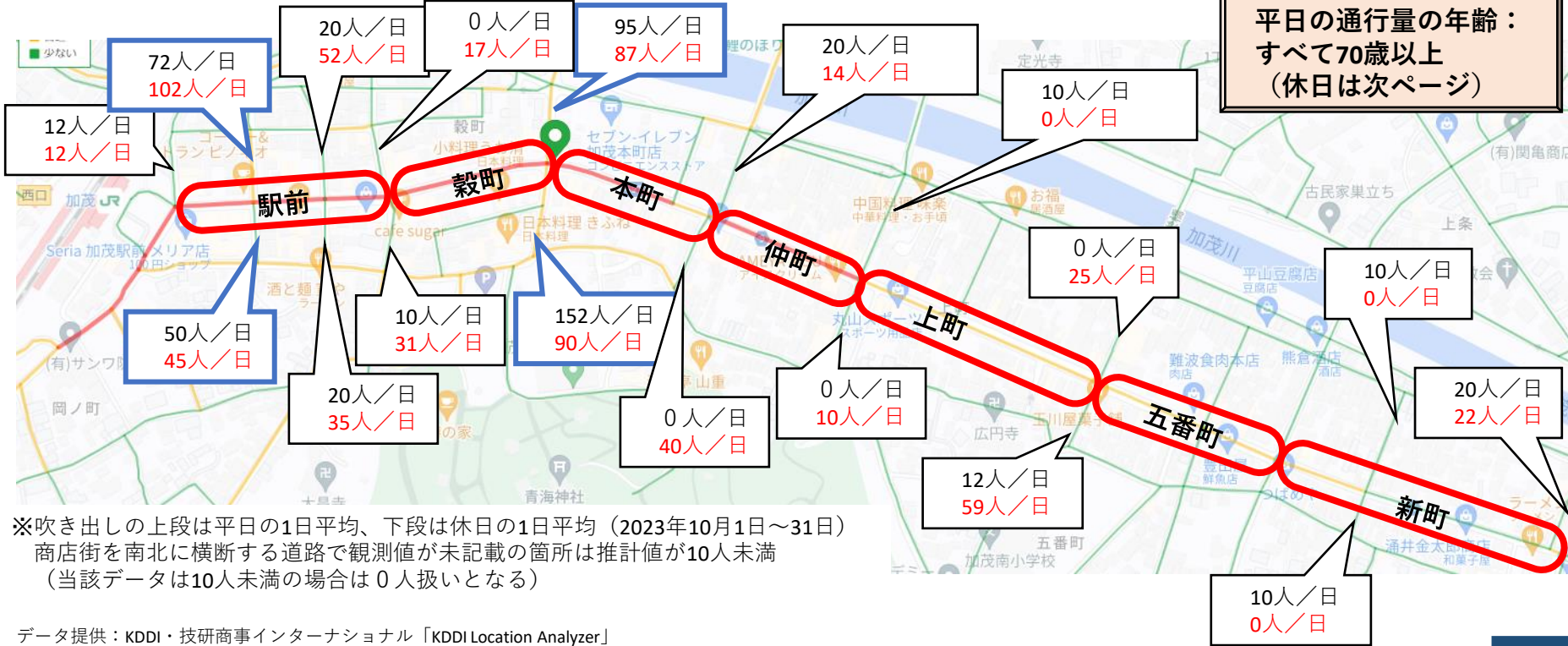
- ・まちなかの主骨格として高密化
- ・令和に暮らせる商店街づくり

日常の賑わい

商店街の南北方向の歩行者の通行量

- 商店街を南北に横断する歩行者通行量は、葵橋～宮大門（交差点）～青海神社の参道の区間が最も多く、平日で95～152人、休日が90人前後となっている。
- 次いで駅前商店街を南北に横断する北側道路の区間が多く、平日が72人、休日が102人となっている。
- 年齢別にみると平日の歩行者は70歳以上の高齢者が中心である（休日は次ページに掲載）。

■商店街の南北方向の歩行者の通行量（*auスマートフォンユーザーに基づく推計値）



※吹き出しの上段は平日の1日平均、下段は休日の1日平均（2023年10月1日～31日）
商店街を南北に横断する道路で観測値が未記載の箇所は推計値が10人未満
(当該データは10人未満の場合は0人扱いとなる)

データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

ワーキングでの検討のための共有情報 (インプット情報)

4つの方向性を深掘りしていくにあたり、議論に必要なデータ・資料

方向性

まち(商店街)

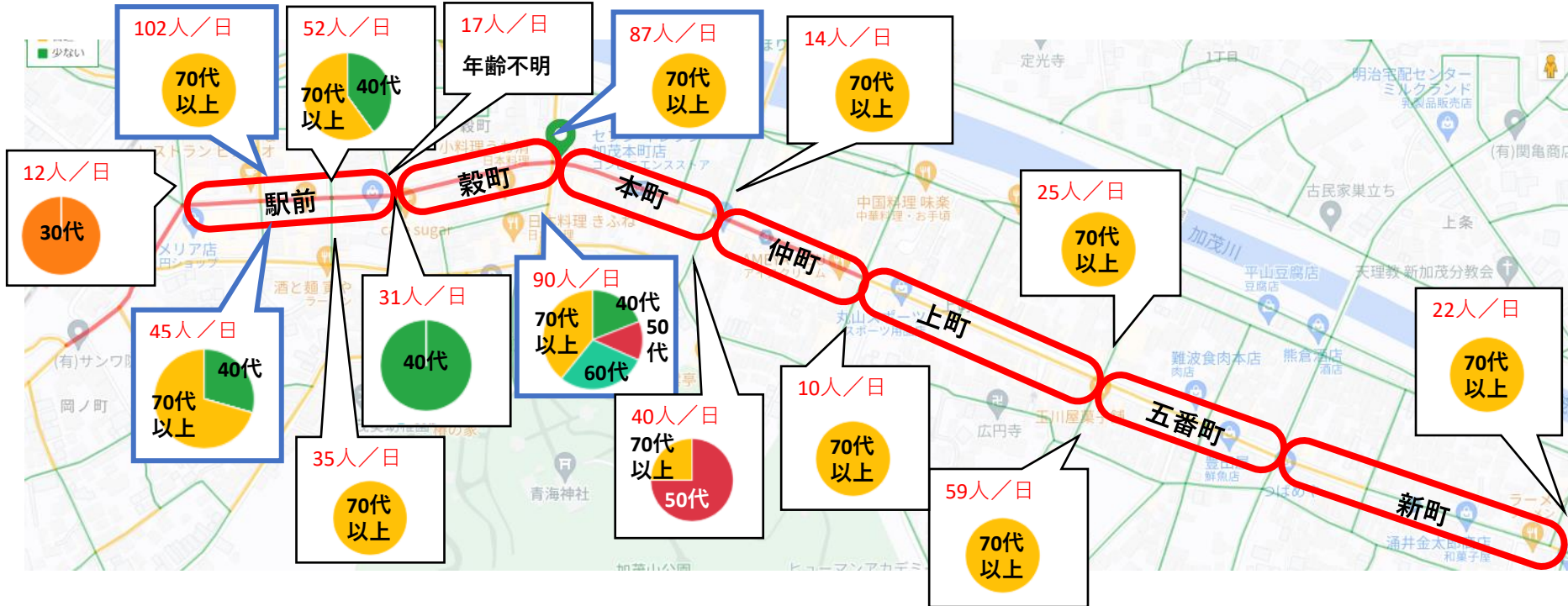
- ・まちなかの主骨格として高密化
- ・令和に暮らせる商店街づくり

日常の賑わい

商店街の南北方向の歩行者の年齢別通行量

- 宮大門(交差点)～青海神社の参道の区間(90人)において、歩行者の年齢層が最も多様であり、駅に近いほど年齢層が多様になる傾向。

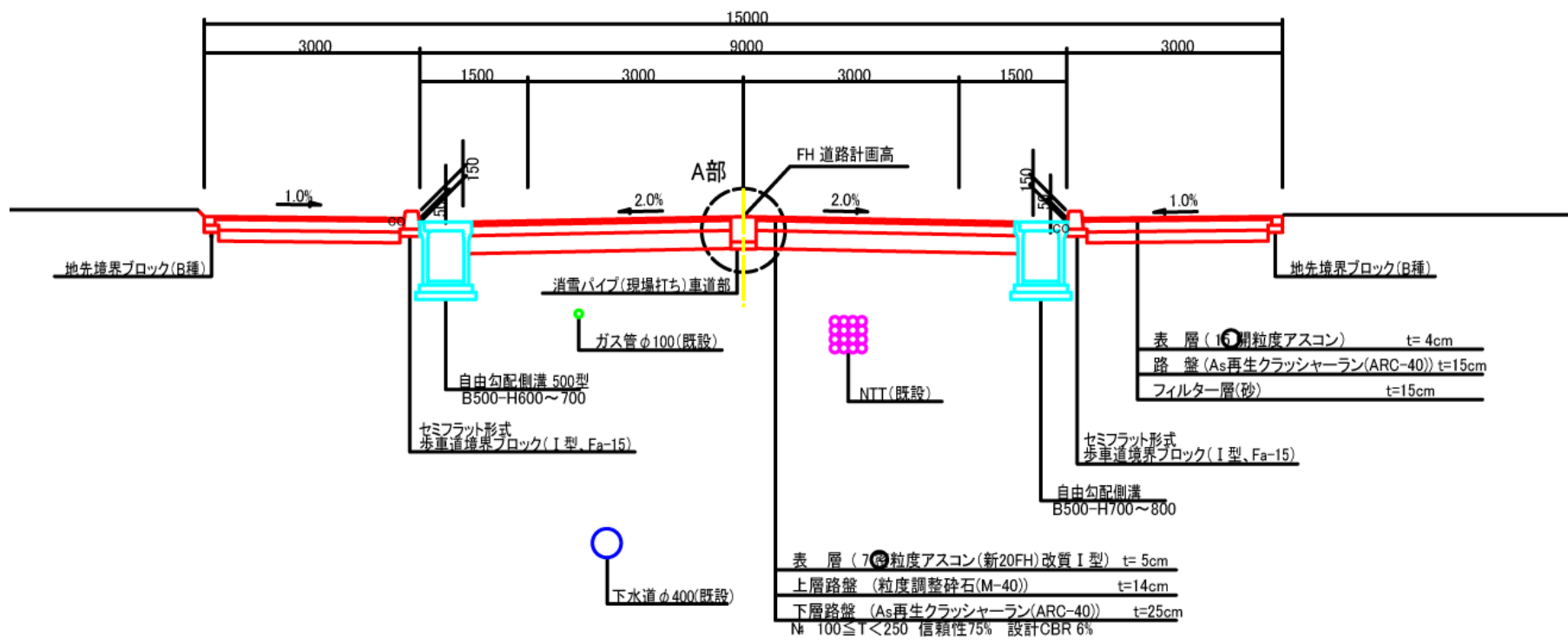
■ 休日における商店街の南北方向の歩行者の通行量 (*auスマートフォンユーザーに基づく推計値)



データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
 ※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

参考

県道長岡栃尾巻線（商店街の通り）の道路断面



方向性

まち(商店街)

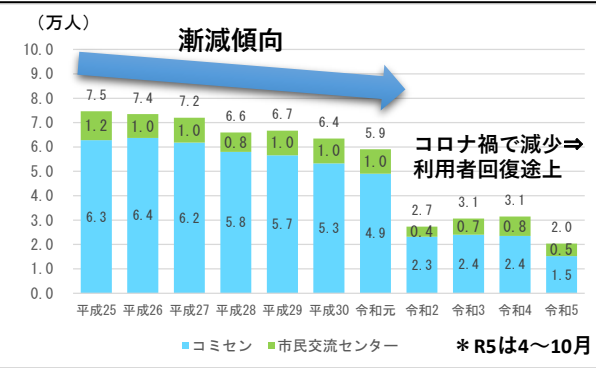
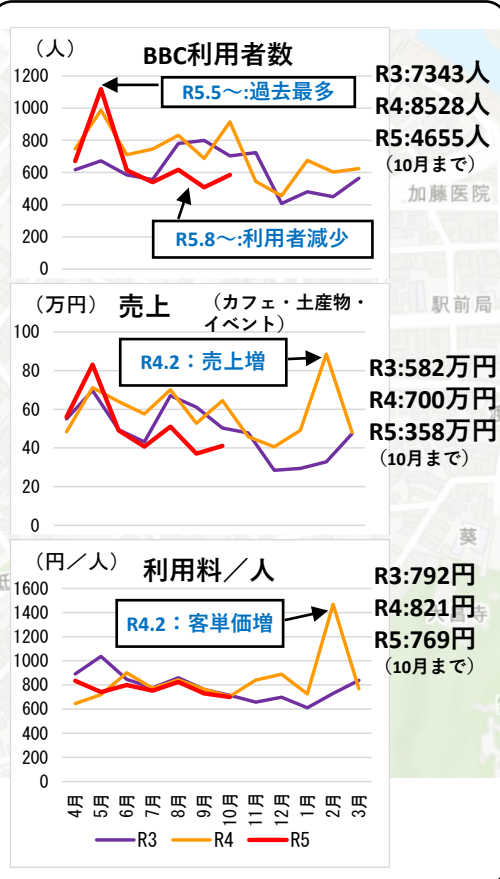
- ・まちなかの主骨格として高密度化
- ・令和に暮らせる商店街づくり

商店街のにぎわい

施設利用者・イベント参加者

- BBCは令和3年～4年に利用が増加したが、令和5年が足踏みの状況。
- 地域交流センターの利用者数はコロナ前から漸減しており、コロナ後も回復途上。
⇒利用状況、施設の老朽化状況を踏まえて、**公的資産としての有効活用が重要。**

■商店街の公的集客施設の利用状況



出典: 加茂市資料を基に作成

方向性

まち(商店街)

- ・まちなかの主骨格として高密度
- ・令和に暮らせる商店街づくり

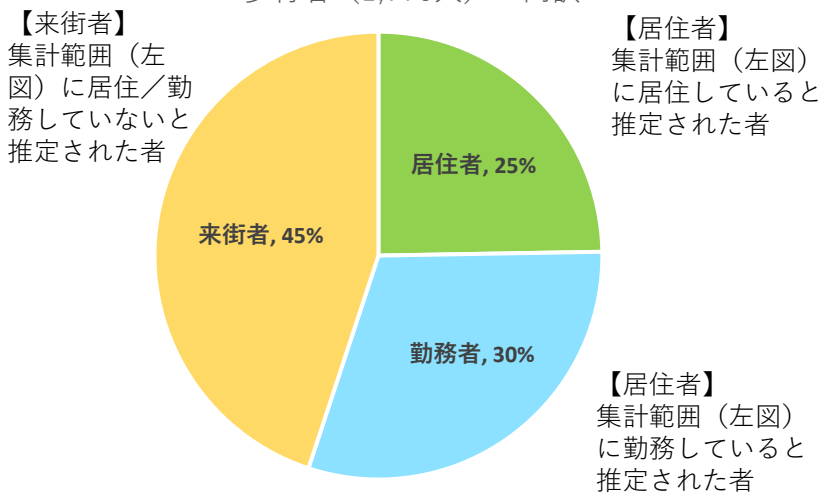
商店街のにぎわい

加茂ナイトバザール (9 / 22)

- 第1回の加茂ナイトバザールでは、auスマートフォンユーザーを基にした推計値で来街者を含む約1800人の歩行者交通量が発生。
⇒まちなかエリア外からも集客しており、**市民にとって「ハレ」を体験**する機会を提供。



歩行者 (1,770人) の内訳



【キッチンカー売上】

- 第1回 (9/22)
 - ・ 21台参加 1,024,500円
- 第2回 (10/20) 雨天
 - ・ 25台参加 529,000円

データ提供: KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

方向性

まち(商店街)

・まちなかの主骨格として高密化

・令和に暮らせる商店街づくり

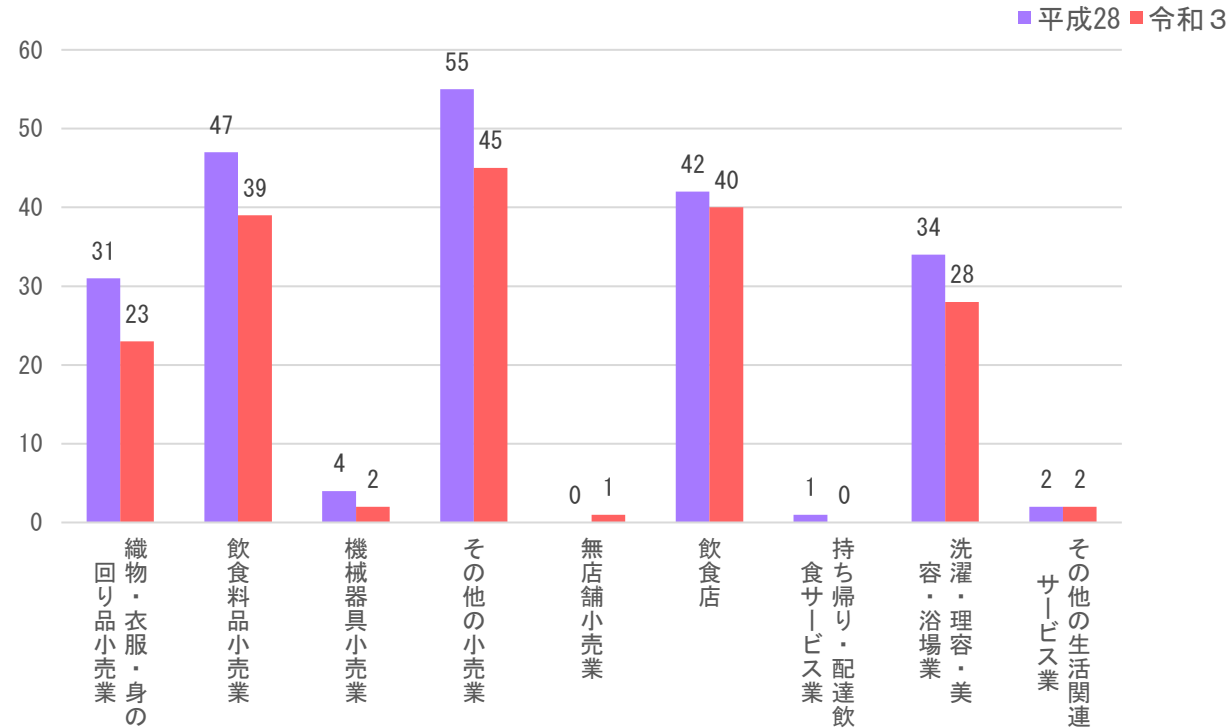
商店街の日常を支える機能

業種構成

- 過去5年間で飲食店は2店舗の減少に留まっているが、日用品である飲食料品小売業及び買い回り品である織物・衣服・身の回り品小売業は8店舗減少。
⇒日常を支える機能の衰退は、**更なるまちの価値の低下**を引き起こす。

■まちなかエリアの商業・サービス関連の業種構成

(店)



※五番町、駅前、穀町、上町、新町1・2丁目、仲町、本町の値を集計

出典：総務省「経済センサス活動調査」を基に作成

方向性

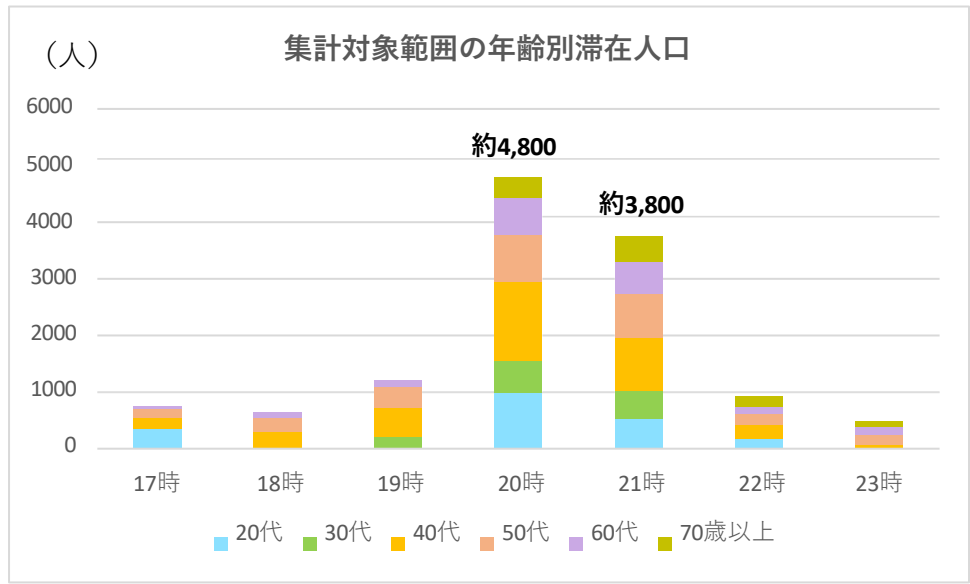
みず(加茂川)

- ・水辺の滞在環境の向上
- ・舞台としてのにぎわい活用の促進

加茂川のにぎわい 第38回越後加茂川夏祭り滞在人口

- 令和5年の越後加茂川夏祭りでは約3万人の入込客数を観測（加茂商工会議所資料より）
- 携帯電話位置情報では20～21時台で38～48千人の滞在人口が観測され、**若い世代、ファミリー世代など多様な世代が参加**

■第38回越後加茂川夏祭り（8／14）の滞在人口集計範囲（150m圏）



データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
 ※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

方向性

みず(加茂川)

- ・水辺の滞在環境の向上
- ・舞台としてのにぎわい活用の促進



加茂川のにぎわい

第38回越後加茂川夏祭り滞在人口

- 携帯電話位置情報では、加茂川夏祭りが開催された8/14の18時～22時の来街者は、**加茂市の居住者が主であり、市外からもおよそ2,000人程度が観測された**

■第38回越後加茂川夏祭り（8/14の18時～22時）の滞在者の居住地分析

市区町村名	人数	市区町村名	人数
新潟県加茂市	1,354	新潟県燕市	92
新潟県新潟市	758	千葉県市川市	79
新潟県新発田市	395	神奈川県横浜市	63
埼玉県東松山市	165	埼玉県さいたま市	56
新潟県三条市	136	群馬県安中市	37
新潟県五泉市	130	神奈川県小田原市	33
新潟県南蒲原郡田上町	119		
市外来訪者	2,063	県外来訪者	433

【前頁の滞在人口集計との数値の差異について】

居住地分析では、居住地情報が開示されていない人のデータや、来訪者の居住者する市区町村の数字が10未満である場合に、推計値が算出できない(0人という解釈)ため、前頁の滞在人口集計と比較して、人数が大幅に少なくなっている。

方向性

みず(加茂川)

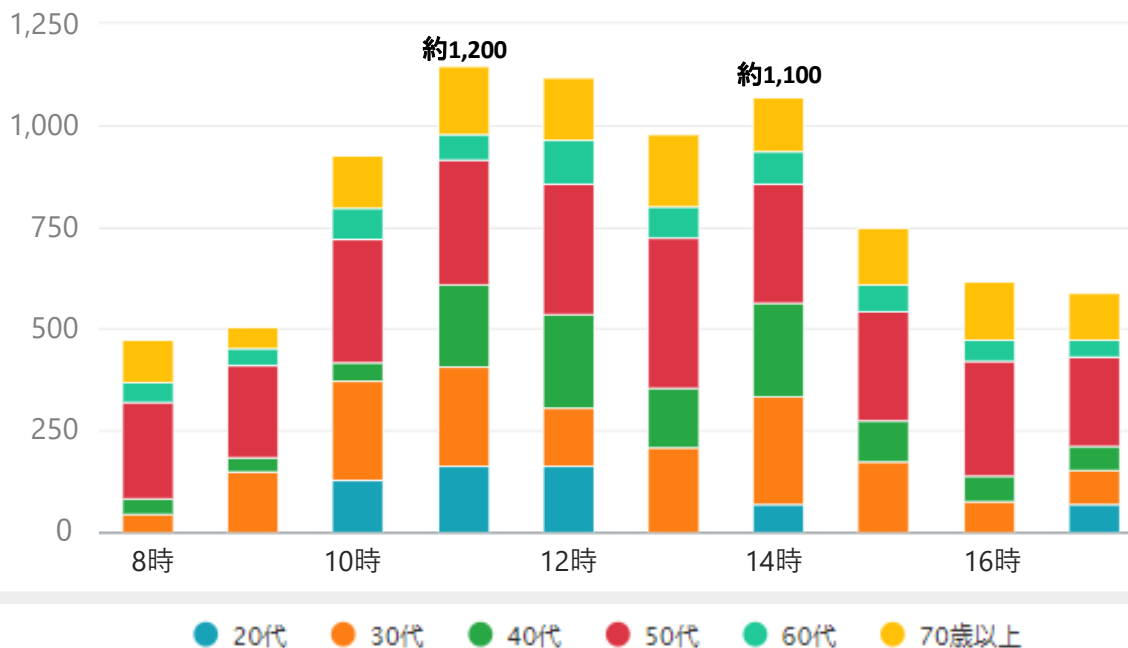
- ・水辺の滞在環境の向上
- ・舞台としてのにぎわい活用の促進

加茂川のにぎわい

加茂川を泳ぐ鯉のぼり

- 携帯電話位置情報では、**11時から14時台**で**1日平均約1,200人**の滞在者が観測され、参加者層としては、**50代が最も多く**、その他の世代も一定数観測された

■加茂川を泳ぐ鯉のぼり (5/3~5) の滞在人口



◆5/3~5/5のキッチンカー売上
飲食: 40万円 / 1日
 ※キッチンカー3台の合計
 ※提供メニューは焼きそば、
 かき氷、から揚げ、
 クレープなど
物販: 12万円 / 1日

データ提供: KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
 ※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

方向性

みず(加茂川)

・水辺の滞在環境の向上

・舞台としてのにぎわい活用の促進

加茂川のにぎわい

加茂川を泳ぐ鯉のぼり

- 携帯電話位置情報では、加茂川の鯉のぼりの時期である5/3~5の加茂川周辺の滞在者は、**新潟市** および**加茂市からの来訪が主**であり、3日間合計で**県外来訪者もおよそ1,000人程度**観測された

■加茂川を泳ぐ鯉のぼり (5/3~5) の滞在者居住地分析

市区町村名	人数	市区町村名	人数	市区町村名	人数
新潟県新潟市西区	1,333	新潟県三条市	486	新潟県魚沼市	83
新潟県新潟市東区	607	新潟県長岡市	395	福井県大野市	78
新潟県新潟市秋葉区	359	新潟県燕市	238	東京都板橋区	67
新潟県新潟市江南区	320	愛知県名古屋市	233	埼玉県草加市	61
新潟県新潟市中央区	314	新潟県新発田市	164	神奈川県横浜市	47
新潟県新潟市北区	225	新潟県北蒲原郡聖籠町	116	千葉県八千代市	47
新潟県新潟市西蒲区	113	東京都小平市	108	福井県坂井市	44
新潟県新潟市南区	53	埼玉県川口市	104	新潟県十日町市	41
新潟県加茂市	1,202	北九州市門司区	100	新潟県見附市	33
市外来訪者合計	5,769	県外来訪者合計	889	北陸地方外の来訪者合計	706

方向性

みず(加茂川)

・水辺の滞在環境の向上

・舞台としてのにぎわい活用の促進

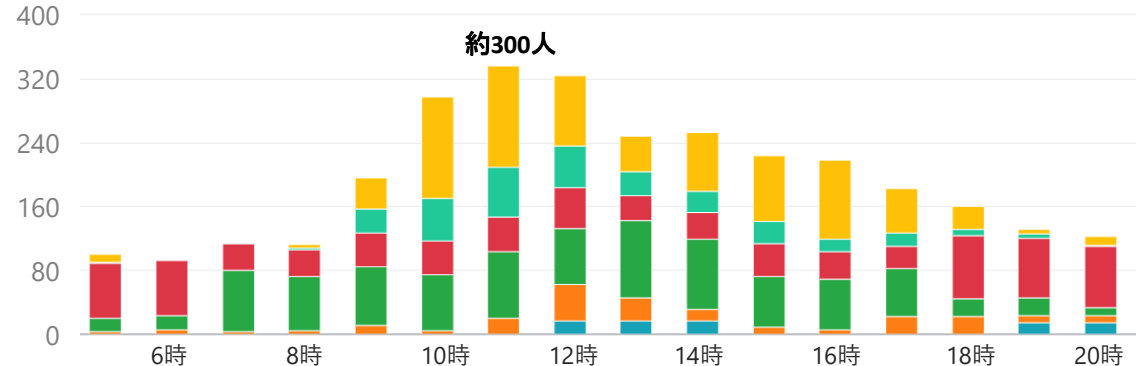
加茂川のにぎわい

通常時(平日・休日)

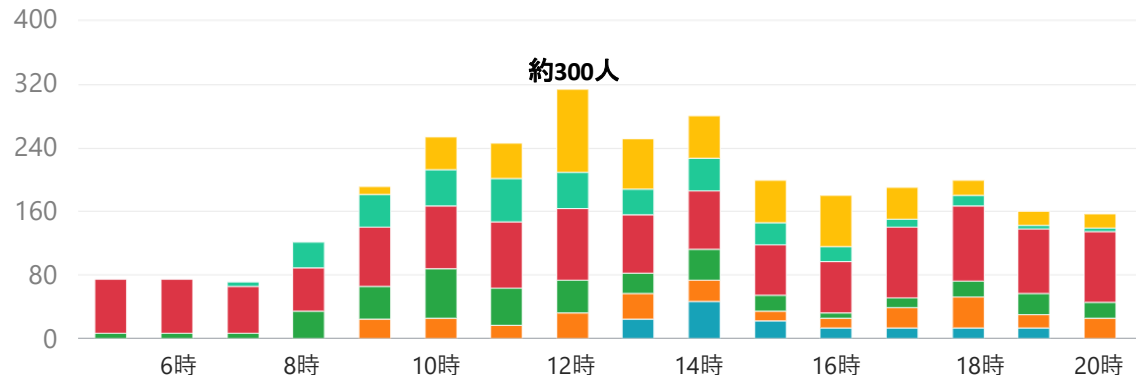
- 携帯電話位置情報では、加茂川周辺には、平日は10時から12時頃に約300人の滞在者が観測され、休日は10時から14時頃に250~300人程度の滞在者が観測された

■ 滞在人口のR5年10月の一日平均(平日・休日)

通常時(平日)



通常時(休日)



● 20代 ● 30代 ● 40代 ● 50代 ● 60代 ● 70歳以上

データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

方向性

みどり(加茂山)

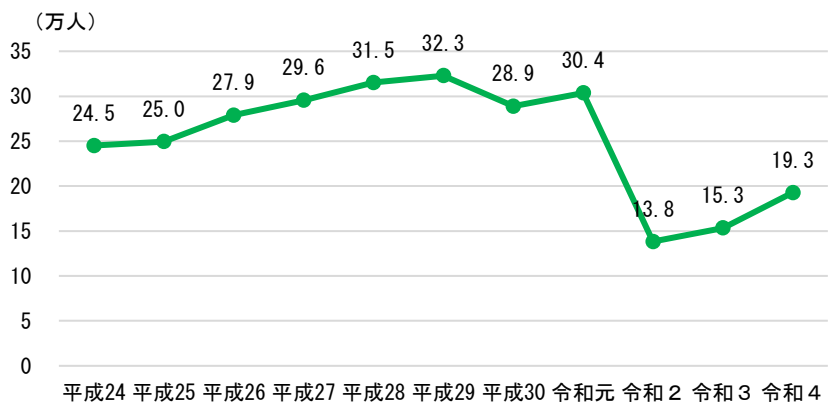
まとまりを生かした憩い空間としての質の向上

加茂山のにぎわい

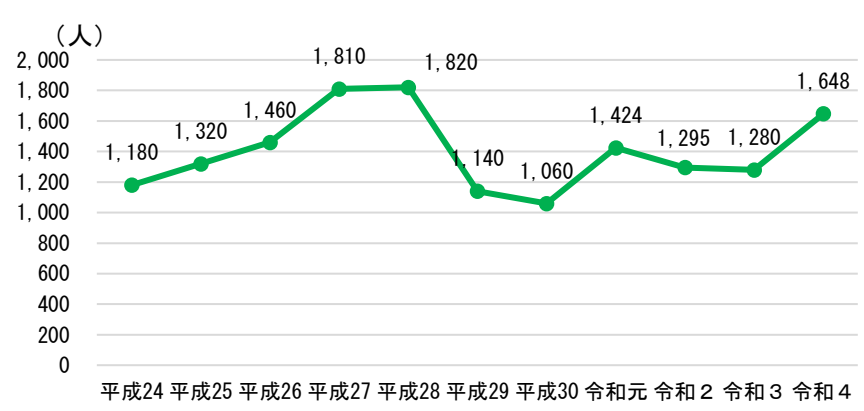
加茂山公園等の入込客数

- 加茂山公園の入込客数はコロナ前は約30万人であったが、回復途上にある

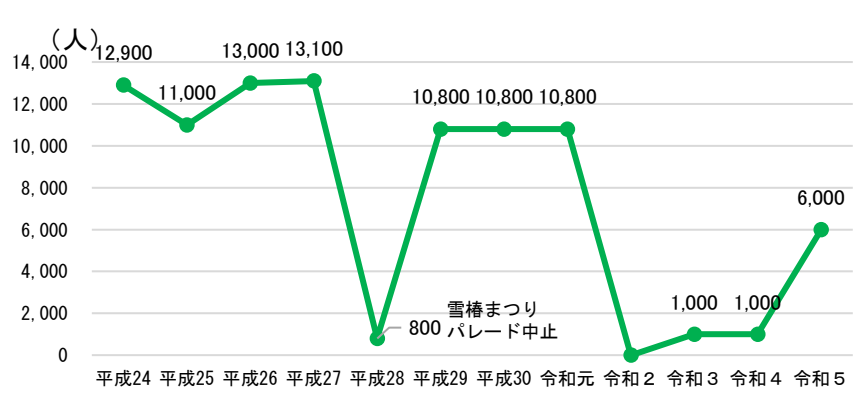
■加茂山公園の入込客数の推移



■加茂市民俗資料館の利用者数の推移



■雪椿まつりの入込客数の推移



出典：加茂市資料を基に作成

方向性

みどり(加茂山)

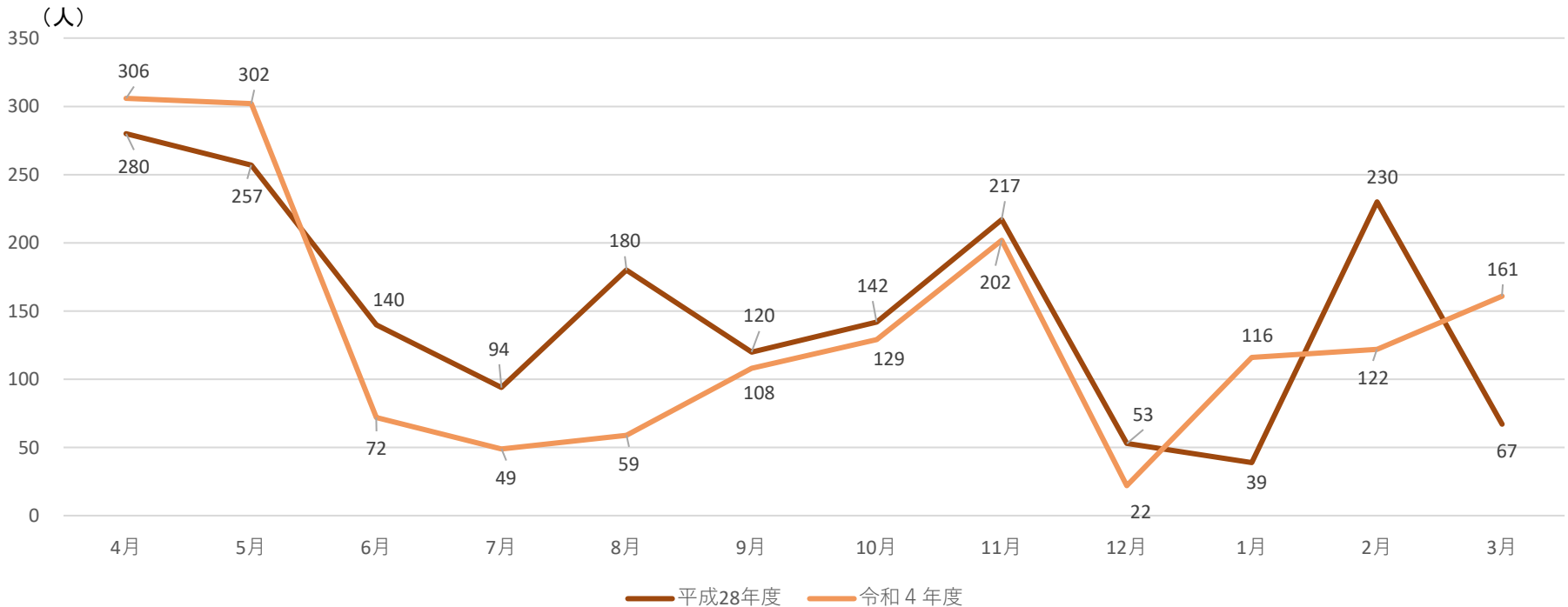
まとまりを生かした憩い空間としての
質の向上

加茂山のにぎわい

加茂山公園等の入込客数

- 加茂市民俗博物館の月間利用者は4月~5月が多い
- 令和4年度は年間利用者が最も多かった平成28年度に比べ、一部の月で上回っているものの、**夏季・秋季(6~12月)**において下まっている

■加茂市民俗資料館の利用者数(月別)の推移



方向性

みどり(加茂山)

まとまりを生かした憩い空間としての質の向上

加茂山のにぎわい

加茂山公園周辺の滞在人口

- 第57回雪椿まつり期間(4月2日~5月7日)の通行者は、商店街(県道加茂停車場線)を経由したルート、公園駐車場を経由したルートが多い(駅前路線の通行者は少ない)
- 期間中の通行者は、**イベント等が開催される祝休日が多い**

■加茂山公園周辺の通行人口(令和5年4月2日~5月7日、徒歩)



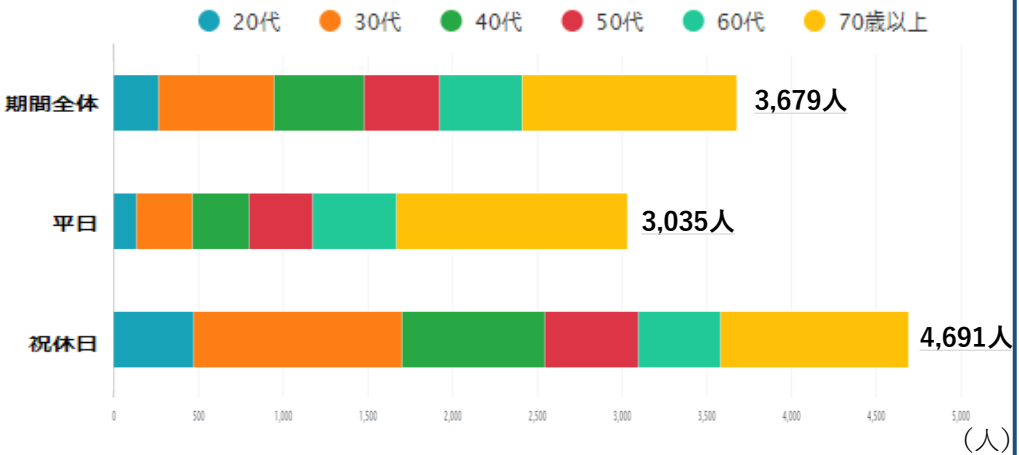
P: 公共駐車場

■加茂山公園周辺の通行人口(令和5年4月2日~5月7日、期間全体、徒歩)

居住者	勤務者	来街者	合計
163人 (4.4%)	24人 (0.6%)	3,492人 (95.0%)	3,679人

「居住者」: 直近1か月の夜間(22~29時)の最頻滞在地が集計範囲の人
 「勤務者」: 直近1か月の昼間(8~19時)の最頻滞在地が集計範囲の人
 「来街者」: 上記以外の人

■加茂山公園周辺の年齢別通行人口(令和5年4月2日~5月7日、徒歩、日平均)



データ提供: KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
 ※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

方向性

みどり(加茂山)

まとまりを生かした憩い空間としての質の向上



加茂山のにぎわい

加茂山公園周辺の滞在人口

- 携帯電話位置情報では、第57回雪椿まつり期間(4月2日~5月7日)の来街者は、新潟市から最も多く加茂市の居住者を含む県内から11,262人程度が観測された
- また、県外からも700人程度の来街者が観測された

■ 第57回雪椿祭り(4/2~5/7の5時~29時)の滞在者の居住地分析

市町村名	人数	市町村名	人数	市町村名	人数
新潟市	3,915人	新発田市	123人	愛知県名古屋市	192人
加茂市	3,249人	見附市	122人	東京都小平市	108人
三条市	1,117人	聖籠町	116人	埼玉県さいたま市	99人
長岡市	627人	柏崎市	109人	埼玉県鴻巣市	94人
燕市	577人	村上市	73人	福井県大野市	78人
田上町	512人	小千谷市	63人	埼玉県川口市	38人
五泉市	266人	南魚沼市	32人	神奈川県平塚市	33人
阿賀野市	174人	刈羽村	22人	静岡県沼津市	28人
須賀川市	165人			福島県郡山市	25人
県内来訪者合計			11,262人	県外来訪者合計	
				695人	

【前頁の滞在人口集計との数値の差異について】

居住地分析では、居住地情報が開示されていない人のデータや、来訪者の居住者する市区町村の数字が10未満である場合に、推計値が算出できない(0人という解釈)ため、前頁の滞在者人口集計と比較して、人数が大幅に少なくなっている。

データ提供: KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

方向性

みどり(加茂山)

まとまりを生かした憩い空間としての質の向上

加茂山のにぎわい

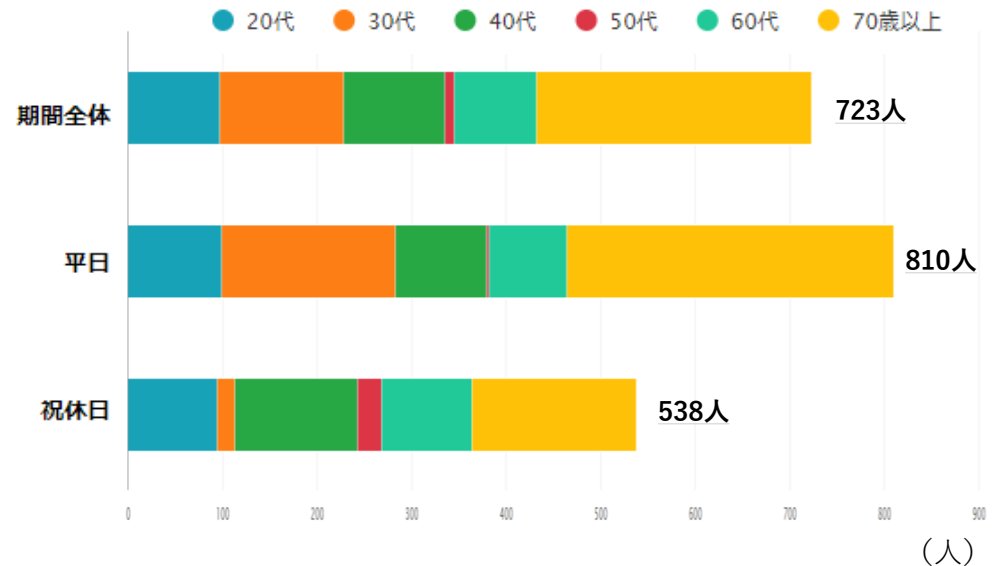
加茂山公園周辺の滞在人口

- 令和5年10月では、**1日利用者は720人／日前後**で平日に比べ**休日の利用者が少ない**
- 加茂市体育館周辺～青海神社・リス園が滞在の中心で、年齢別では**約半数が60代以上**

■加茂山公園の滞在人口（令和5年10月の1か月）



■加茂山公園の年齢別滞在人口（日平均）



データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

方向性

みどり(加茂山)

まとまりを生かした憩い空間としての質の向上

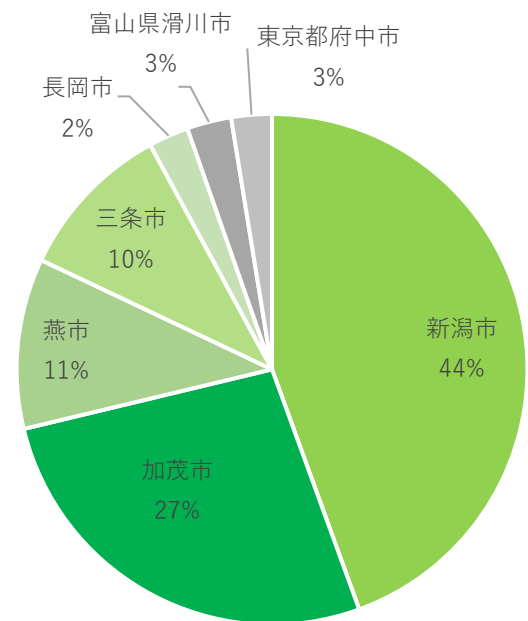
加茂山のにぎわい

加茂山公園周辺の滞在人口

- 携帯電話位置情報では、令和5年10月の来街者は、加茂市の居住者を含む**県内からの利用が多く**観測された。
→**加茂市の利用者を増やし**、リピーター化することで、周辺自治体からの利用者増の可能性。

■加茂山公園（10/1～10/31の5時～29時）の滞在者の居住地分析

市町村名	人数	市町村名	人数
新潟市	1,455人	富山県滑川市	92人
加茂市	877人	東京都府中市	84人
燕市	353人		
三条市	329人		
長岡市	83人		
県内来訪者合計	3,097人	県外来訪者合計	176人



【前頁の滞在人口集計との数値の差異について】

居住地分析では、居住地情報が開示されていない人のデータや、来訪者の居住者する市区町村の数字が10未満である場合に、推計値が算出できない（0人という解釈）ため、前頁の滞在人口集計と比較して、人数が大幅に少なくなっている。

データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

【資料編その2】 補足資料

- 岡山県及び矢掛町が「地域連携機能」「休憩機能」「情報発信機能」を有する道の駅の施設を整備。
- 「山陽道やかげ宿」は、物産や飲食をあえて設けない、全国でもめずらしい新しいスタイルの道の駅。
- 隣接する商店街を物販・飲食コーナーとして道の駅の施設と一体化。
- まち全体が「やかげまるごと道の駅」として、市街地全体の活性化を目指した道の駅として整備。



道の駅の施設

- ・敷地面積 4, 530㎡
- ・建築面積 433.79㎡
- ・延床面積 511.15㎡
- ・駐車場 39台

■道の駅「山陽道やかげ宿」の施設概要

【外観】



【ラウンジ】



【お土産品コーナー】



【キッズルーム】



【屋外テラス】



【電動バイクレンタル】



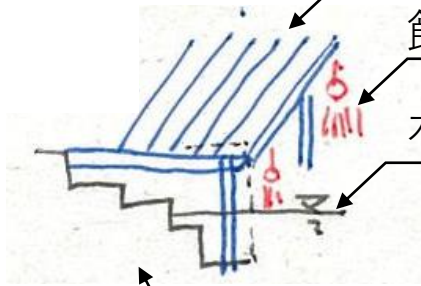
常設タイプイメージ



川床

飾り（灯など）

水面レベル



階段状の護岸整備が必要

仮設タイプイメージ

（山口県長門市の長門湯本温泉街川床テラス）



写真：国土交通省水管理・国土保全局「河川空間のオープン化活用事例集」（令和4年8月）等